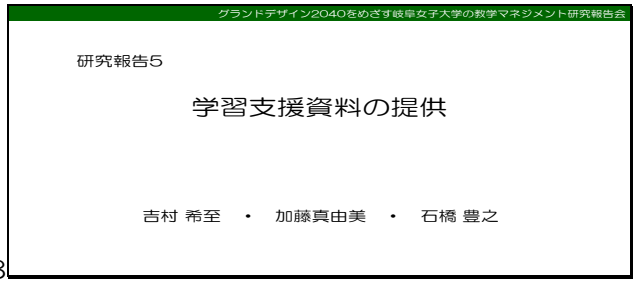
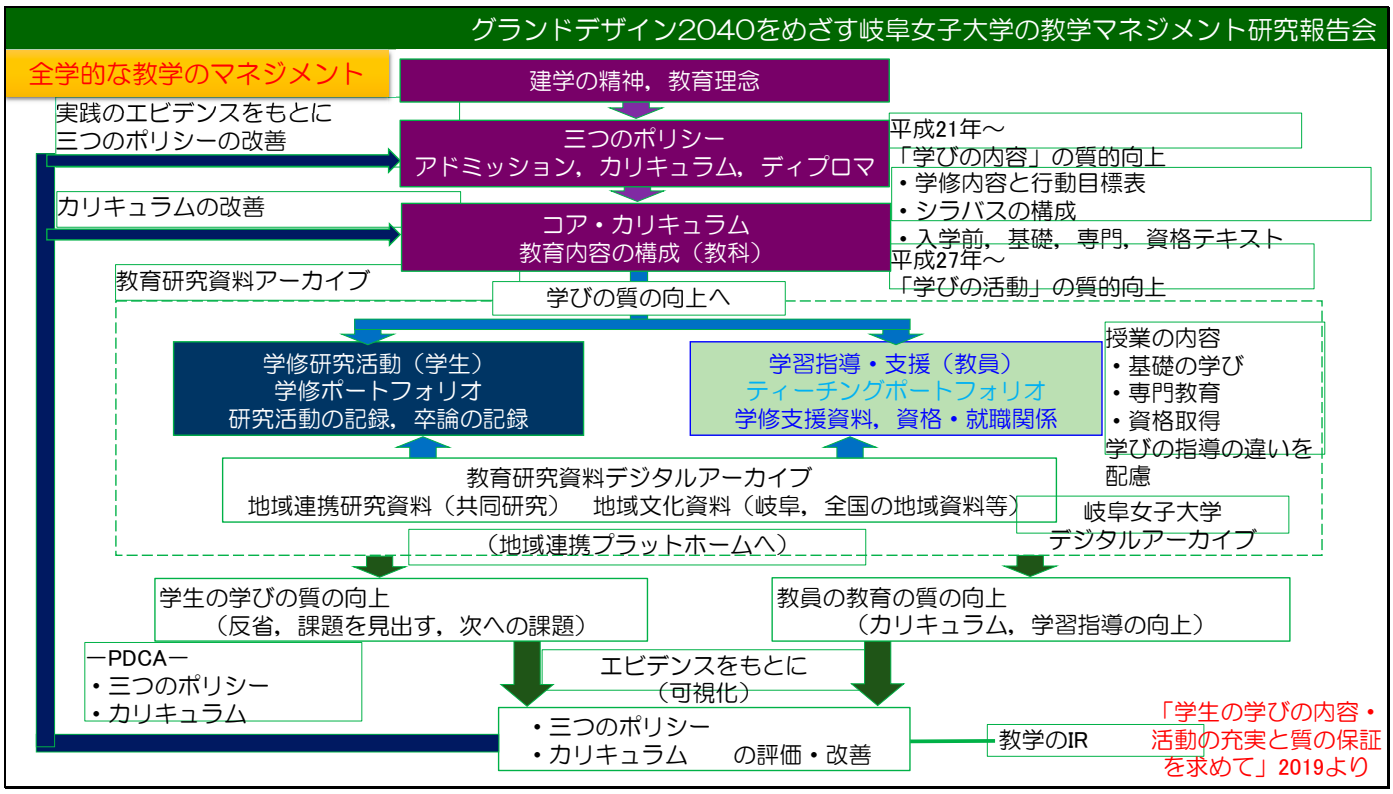
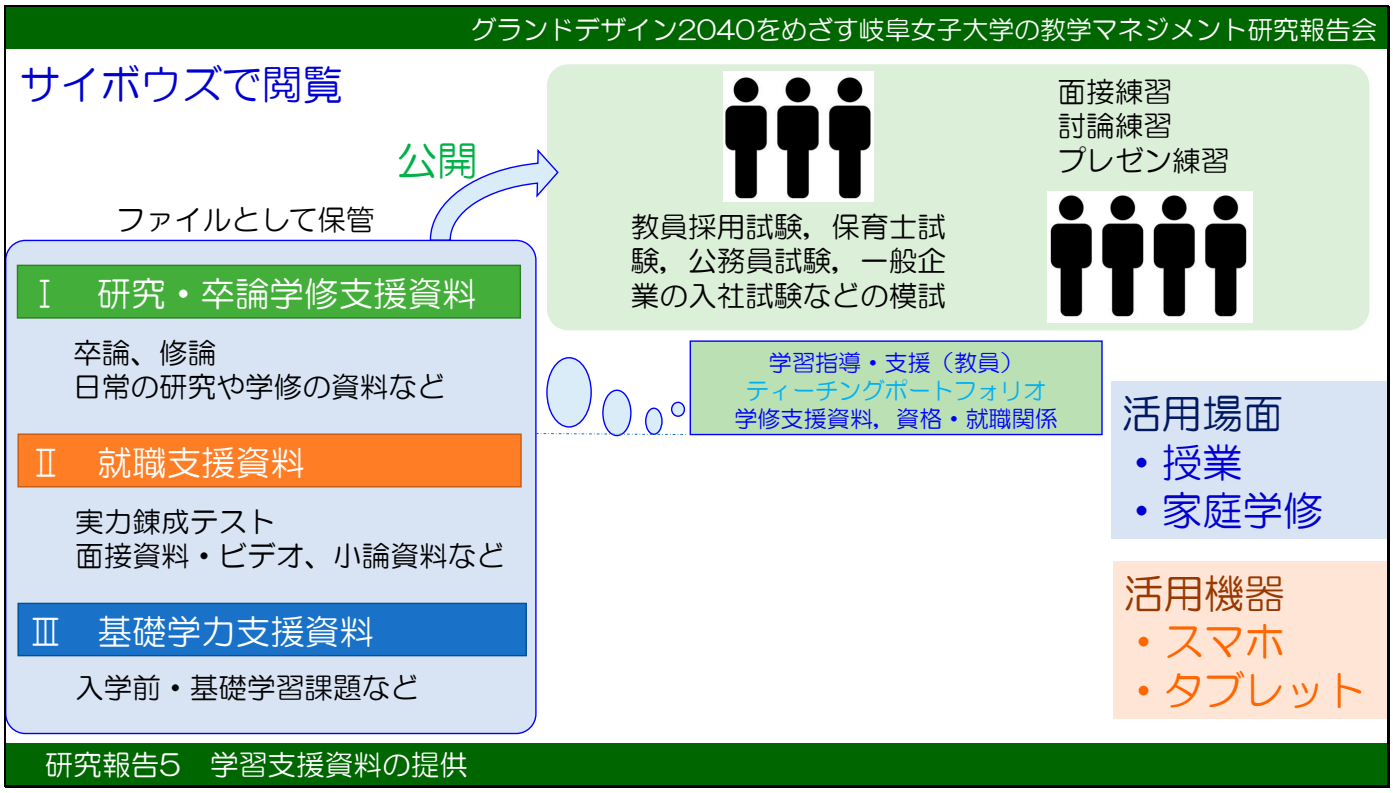
スライド 88



スライド 89



スライド 90



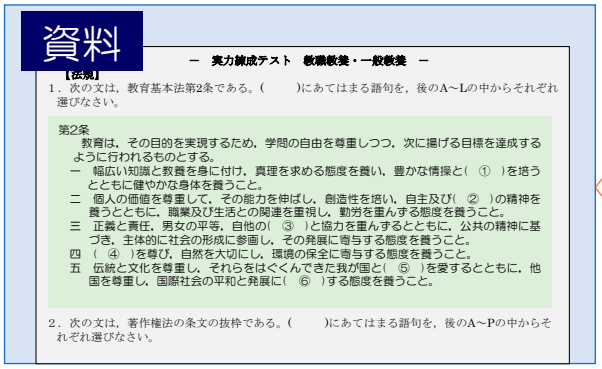
スライド 91

サイボウズで閲覧

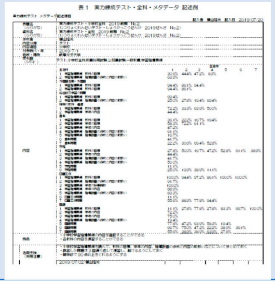
トップページ カスタムアプリ（ルートフォルダ） > 学生学習支援デジタルアーカイブ【構築用】 > 学生学習支援デジタルアーカイブ

区分	Webページへのリンク（URL）	添付ファイル	登録日時
面接タイプ別事例「個人面接」	http://192.168.200.210/open/openviewer.jsp?type=mini&key=SEpTUmhQU09JZmo4RWpQMW1wMWxWZz09	kyouinsaiyousiken_jirei_kojinmensetsu.pdf	2017/3/22 15:46
面接試験の基本_入室から退室まで_NG	http://192.168.200.210/open/openviewer.jsp?type=mini&key=alZhdk4wRTFvams5VHJnUWJYUE15Zz09	kyouinsaiyousiken_nyushitukarataishitu_ng.pdf	2017/3/22 15:46
面接試験の基本_入室から退室まで	http://192.168.200.210/open/openviewer.jsp?type=mini&key=dWZKK2xqKzlEcks4NHFiUm5GKzAydz09	kyouinsaiyousiken_nyushitukarataishitu.pdf	2017/3/22 15:46
面接対策「面接テーマ」Q&A10諸課題	http://192.168.200.210/open/openviewer.jsp?type=mini&key=OTJWN0QzTWRk	kyouinsaiyousiken_mensetute-ma_10.pdf	2017/3/22 15:45

資料



メタデータ



活用場面
- 授業
- 家庭学修

活用機器
- スマホ
- タブレット

スライド 92

― 実力練成テスト 教職教養・一般教養 ―

【法規】

1．次の文は，教育基本法第2条である。(　　)にあてはまる語句を，後のA～Lの中からそれぞれ選びなさい。

第2条　教育は，その目的を実現するため，学問の自由を尊重しつつ，次に掲げる目標を達成するように行われるものとする。

一　幅広い知識と教養を身に付け，真理を求める態度を養い，豊かな情操と(　①　)を培うとともに健やかな身体を養うこと。

二　個人の価値を尊重して，その能力を伸ばし，創造性を培い，自主及び(　②　)の精神を養うとともに，職業及び生活との関連を重視し，勤労を重んずる態度を養うこと。

三　正義と責任，男女の平等，自他の(　③　)と協力を重んずるとともに，公共の精神に基づき，主体的に社会の形成に参画し，その発展に寄与する態度を養うこと。

四　(　④　)を尊び，自然を大切にし，環境の保全に寄与する態度を養うこと。

五　伝統と文化を尊重し，それらをはぐくんできた我が国と(　⑤　)を愛するとともに，他国を尊重し，国際社会の平和と発展に(　⑥　)する態度を養うこと。

2．次の文は，著作権法の条文の抜粋である。(　　)にあてはまる語句を，後のA～Pの中からそれぞれ選びなさい。

スライド 93

教育支援センターに整備された紙媒体の試験問題のセット

スライド 94

テストに関する学生の達成意識

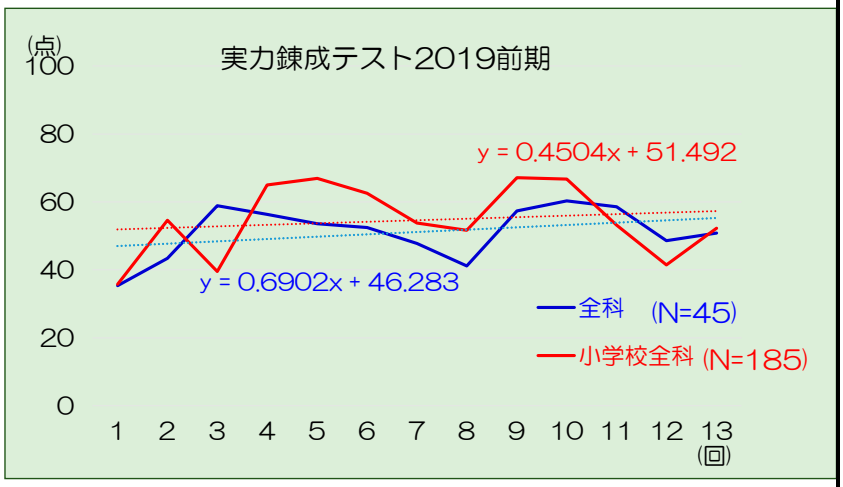
明確な目的意識
- 基礎力を付ける
- 就職対策・資格取得

↓

授業 ＋ 家庭学修

↑

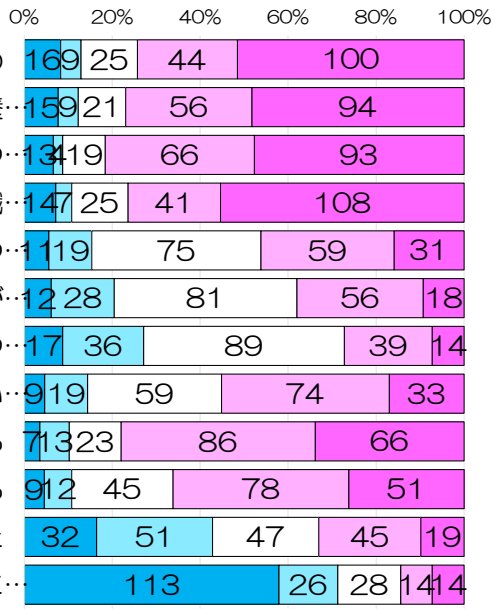
学修支援資料の提供
個票、グラフの提供



スライド 95

グランドデザイン2040をめざす岐阜女子大学の教学マネジメント研究報告会

テストに関する学生の達成意識



		μ	σ
目　的	1:試験を受ける目的は、就職のため	4.05	1.26
	2:試験を受ける目的は、一般教養…	4.05	1.21
	3:試験を受ける目的は、実力をつ…	4.14	1.12
	4:試験を受ける目的は、将来の職…	4.14	1.21
効　果	5:試験を受けた効果は、実力がつ…	3.41	1.05
	6:試験を受けた効果は、誤答が…	3.21	1.00
	7:試験を受けた効果は、自信がつ…	2.98	1.01
	8:試験を受けた効果は、落ち着い…	3.53	1.03
テスト中	9:試験中、集中して取り組める	3.98	1.03
	10:試験中、意欲的に取り組める	3.77	1.05
家庭学修	11:家庭学修でテスト問題を復習した	2.84	1.24
	12:朝学修で、完璧にとけるように…	1.92	1.29

研究報告5　学習支援資料の提供

スライド 96

グランドデザイン2040をめざす岐阜女子大学の教学マネジメント研究報告会

達成意識の相関係数

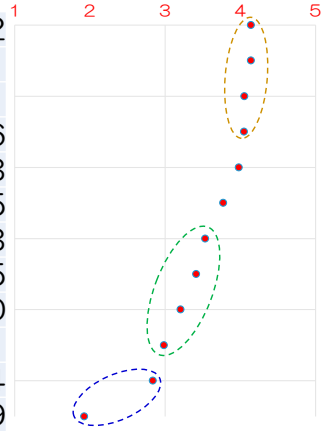
		問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11
目的	1 試験を受ける目的は、就職のため	—										
	2 試験を受ける目的は、一般教養を身に付けるため	.593**	—									
	3 試験を受ける目的は、実力をつけるため	.690**	.822**	—								
	4 試験を受ける目的は、将来の職業のため	.760**	.639**	.774**	—							
効果	5 試験を受けた効果は、実力がついたこと	.424**	.328**	.494**	.504**	—						
	6 試験を受けた効果は、誤答が減ったこと	.240**	.232**	.384**	.346**	.512**	—					
	7 試験を受けた効果は、自信がついたこと	.235**	.143*	.303**	.347**	.584**	.596**	—				
	8 試験を受けた効果は、落ち着いて試験を受けることができるようになったこと	.388**	.377**	.463**	.430**	.393**	.316**	.442**	—			
テスト中	9 試験中、集中して取り組める	.418**	.395**	.458**	.477**	.425**	.389**	.387**	.444**	—		
	10 試験中、意欲的に取り組める	.376**	.421**	.498**	.451**	.474**	.401**	.389**	.470**	.770**	—	
家庭学修	11 家庭学修でテスト問題を復習した	0.131	0.129	.144*	.185**	.276**	.271**	.342**	.249**	.238**	.344**	—
	12 朝学修で、完璧にとけるようになったことを確認した	-.228**	-.156*	-0.110	-0.112	.157*	.215**	.307**	0.069	-0.075	0.028	.412**

研究報告5　学習支援資料の提供

スライド 97

テストに関する学生の達成意識

		μ	σ
目的	3:試験を受ける目的は、実力をつけるため	4.14	1.12
目的	4:試験を受ける目的は、将来の職業のため	4.14	1.21
目的	2:試験を受ける目的は、一般教養を身に付けるため	4.05	1.21
目的	1:試験を受ける目的は、就職のため	4.05	1.26
テスト中	9:試験中、集中して取り組める	3.98	1.03
テスト中	10:試験中、意欲的に取り組める	3.77	1.05
効果	8:落ち着いて試験を受けることができるようになったこと	3.53	1.03
効果	5:実力がついたこと	3.41	1.05
効果	6:誤答が減ったこと	3.21	1.00
効果	7:自信がついたこと	2.98	1.01
家庭学修	11:家庭学修でテスト問題を復習した	2.84	1.24
家庭学修	12:朝学修で、完璧にとけるようになったことを確認した	1.92	1.29



効果
8.と6. (t(193)=3.735,p<.01)
8.と7. (t(193)=7.032,p<.01)
5.と6. (t(193)=2.823,p<.01)
6.と7. (t(193)=3.396,p<.01)

目的と意欲
1.と10. (t(193)=2.979,p<.01)

家庭学修
12.と11. (t(193)=9.222,p<.01)
11.と6. (t(193)=3.840,p<.01)

スライド 98

面接練習・討論練習用資料(一部)

面接タイプ別事例「個人面接」
面接試験の基本_入室から退室まで_NG
面接試験の基本_入室から退室まで
面接対策「面接テーマ」Q&A10諸課題
面接対策「面接テーマ」Q&A09教育時事
面接対策「面接テーマ」Q&A08子ども理解・生活指導
面接対策「面接テーマ」Q&A07生徒指導
面接対策「面接テーマ」Q&A06学習指導
面接対策「面接テーマ」Q&A05授業
面接対策「面接テーマ」Q&A04学校・学級経営
面接対策「面接テーマ」Q&A03教師像
面接対策「面接テーマ」Q&A02志望動機
面接対策「面接テーマ」Q&A01自己
面接対策「面接テーマ」Q&A00質問一覧
教員採用試験面接対策講座_個人面接の事例

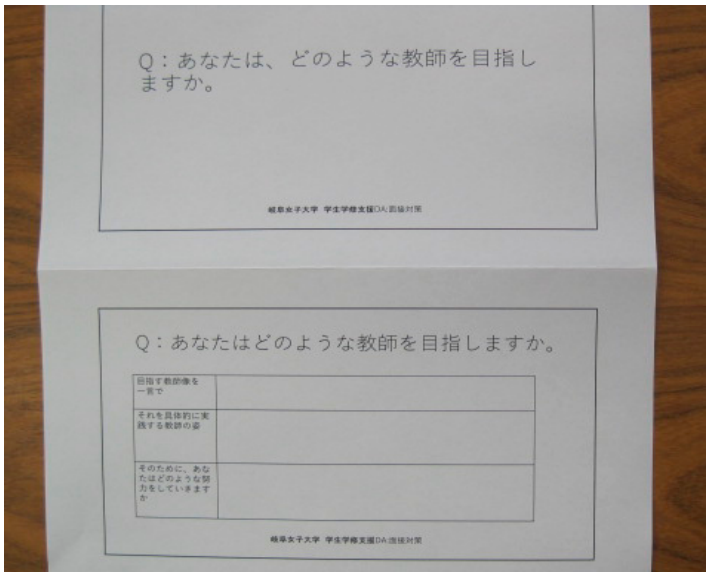
スライド 99

Ⅲ　面接質疑応答　＜NG編＞

- 面接官の方を向かず，視線を合わない。
- 表情が暗い。下向きがちで明朗さに欠ける。
- 挙手は、腕が曲がり自信なさそう。
- 小さな声で聞き取りにくい。
- 場をわきまえず、声が大きすぎる。
- 早口でぼそぼそと話す。
- 他の人の話す時、聞いていない。
- 笑顔、真剣、明るさ、残念さ‥‥話題に応じた豊かな表情がみられない。

＜面接練習用資料：面接練習の基本　各場面（事例）＞

スライド 100



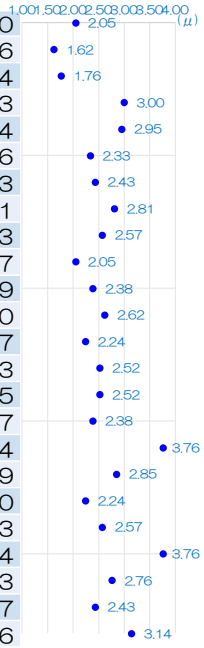
面接資料：Q&Aカード

スライド 101

グランドデザイン2040をめざす岐阜女子大学の教学マネジメント研究報告会

面接練習・討論練習用資料に関する調査

			1: 全く	2: あまり	3: まあまあ	4: かなり	μ	σ
DA	認知	1:学生学修支援デジタルアーカイブを知っている	6	8	7	0	2.05	0.80
	活用	2:学生学修支援デジタルアーカイブの教育支援資料を活用した	12	6	2	1	1.62	0.86
		3:学生学修支援デジタルアーカイブの教育支援資料は就職対策の学修	11	5	4	1	1.76	0.94
	意欲	4:もっとたくさん学生学修支援デジタルアーカイブの教育支援資料を	1	2	13	4	3.00	0.73
		5:これからも学生学修支援デジタルアーカイブの教育支援資料を活用	1	3	13	4	2.95	0.74
面接関連感情尺度	楽しさ	6:面接試験が楽しみだ	4	7	9	1	2.33	0.86
		7:自分にとって面接試験は楽しめる課題だ	3	9	6	3	2.43	0.93
		8:うまくいくのが楽しみなので一生懸命勉強する	1	6	10	4	2.81	0.81
		9:試験の後は喜びで胸がドキドキする	3	8	5	5	2.57	1.03
	希望	10:とても自信がある	7	8	4	2	2.05	0.97
		11:自分には面接試験を行うための力が十分にある	1	11	9	0	2.38	0.59
		12:大きな希望と期待を胸に試験勉強を始める	2	6	11	2	2.62	0.80
	誇り	13:自分自身に満足している	4	8	9	0	2.24	0.77
		14:自分の成功について考えると，誇れる気分になる	3	7	8	3	2.52	0.93
		15:自分の知識に対する得意な気持ちが試験への頑張りとなっている	1	10	8	2	2.52	0.75
		16:試験がうまくいって誇らしい表情で教室から出て行く	1	12	7	1	2.38	0.67
	安堵	17:面接試験が終わると安心する	0	5	16		3.76	0.44
		18:ようやく笑うことができる	2	5	7	6	2.85	0.99
ICT活用	日常	19:日常生活（学修以外）においてパソコンを利用する	6	6	7	2	2.24	1.00
		20:日常生活（学修以外）においてタブレット型パソコンを利用する	4	5	8	4	2.57	1.03
		21:日常生活（学修以外）においてスマートフォンを利用する	0	3	17		3.76	0.54
	学修	22:学修においてパソコンを利用する	2	4	12	3	2.76	0.83
		23:学修においてタブレット型パソコンを利用する	4	5	11	1	2.43	0.87
		24:学修においてスマートフォンを利用する	2	2	8	9	3.14	0.96



■1: 全く □2: あまり □3: まあまあ ■4: かなり

研究報告5　学習支援資料の提供

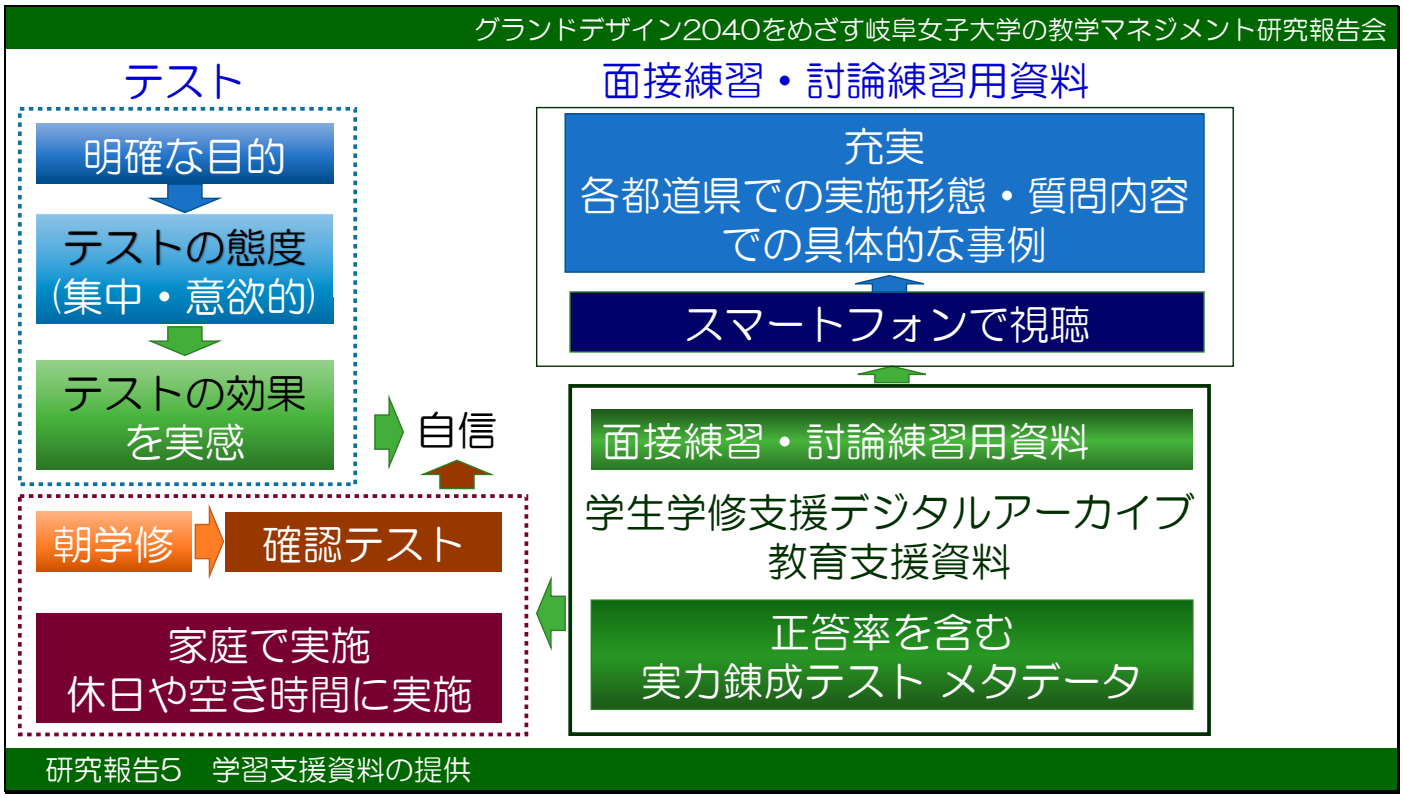
スライド 102

グランドデザイン2040をめざす岐阜女子大学の教学マネジメント研究報告会

		6:	7:	8:	9:	10:	11:	12:	13:	14:	15:	16:	17:
楽しさ	6:面接試験が楽しみだ	—											
	7:自分にとって面接試験は楽しめる課題だ	.883**	—										
	8:うまくいくのが楽しみなので一生懸命勉強する	.670**	.778**	—									
	9:試験の後は喜びで胸がドキドキする	.568**	.623**	.615**	—								
希望	10:とても自信がある	.700**	.642**	.706**	.571**	—							
	11:自分には面接試験を行うための力が十分にある	.429	.327	.472*	.118	.490*	—						
	12:大きな希望と期待を胸に試験勉強を始める	.701**	.566**	.571**	.639**	.599**	.427	—					
誇り	13:自分自身に満足している	.481*	.341	.396	.199	.519*	.452*	.477*	—				
	14:自分の成功について考えると，誇れる気分になる	.461*	.424	.536*	.404	.524*	.348	.481*	.657**	—			
	15:自分の知識に対する得意な気持ちが試験への頑張りとなっている	.571**	.381	.582**	.436*	.718**	.544*	.430	.467*	.664**	—		
	16:試験がうまくいって誇らしい表情で教室から出て行く	.727**	.611**	.599**	.540*	.585**	.501*	.469*	.496*	.629**	.779**	—	
安堵	17:面接試験が終わると安心する	.223	.141	-.134	.096	.146	-.019	-.129	-.121	-.170	.247	.326	—
	18:ようやく笑うことができる	.307	.302	.233	.346	.115	.018	.259	-.017	-.189	-.025	.094	.390

研究報告5　学習支援資料の提供

スライド 103


グランドデザイン2040をめざす岐阜女子大学の教学マネジメント研究報告会
テスト
明確な目的
テストの態度
(集中・意欲的)
テストの効果
を実感
自信
朝学修
確認テスト
家庭で実施
休日や空き時間に実施
面接練習・討論練習用資料
充実
各都道県での実施形態・質問内容
での具体的な事例
スマートフォンで視聴
面接練習・討論練習用資料
学生学修支援デジタルアーカイブ
教育支援資料
正答率を含む
実力錬成テスト メタデータ
研究報告5　学習支援資料の提供

スライド 104

研究報告6

ポリシーから見た評価

松井 徹 ・ 齋藤 陽子

スライド 105

文化創造学部 ディプロマ・ポリシー

文化創造学部は，建学の精神に基づき，広く豊かな教養と初等教育，文化事業に関する高い専門知識や技能を身につけ，主体性を持って地域社会で活動できる人材を養成するため，以下の三つを教育目標とする。この教育目標を踏まえて編成した教育課程を修め，卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。

1 「女子ならでは」の深い教養を育み，生涯にわたって学び続ける力，主体性を持って地域社会で活動できる力を身に付ける。

2 初等教育・文化に関する高い専門的知識と技能を修得し，社会的に認められる資格を取得できる力を身に付ける。

3 相手の立場を思いやる心，たゆまず努力する姿勢，多様な価値観を認める寛容な精神など，地域社会で幅広く活躍できる人間力を身に付ける。

スライド 106

文化創造学部 ディプロマ・ポリシー～キーワード～

DP1：学び続ける力

DP2：主体性

DP3：高い専門的知識と技能

DP4：思いやる心

DP5：たゆまず努力する姿勢

DP6：寛容な精神

DP7：地域社会で幅広く活躍

スライド 107

ブルームのタキソノミー

6.0	評価(Evaluation)		
5.0	統合(Synthesis)	個性化(Characterization)	自然化(Naturalization)
4.0	分析(Analysis)	組織化(Organization)	分節化(Articulation)
3.0	応用(Application)	価値づけ(Valuing)	精密化(Precision)
2.0	理解(Comprehension)	反応(Responding)	巧妙化(Manipulation)
1.0	知識(Knowledge)	受け入れ(Receiving)	模倣(Imitation)
	認知的領域	情意的領域	精神運動的領域

出典：梶田叡一（１９８３）「教育評価」有斐閣、ｐ112

改訂版タキソノミー

		認知過程の次元					
		記憶	理解	応用	分析	評価	創造
知識次元	事実的						
	概念的						
	遂行的						
	メタ認知的						

出典：梶田叡一（奈良学園大学長）著『教育評価（第２版補訂版）』（有斐閣），国立教育政策研究所『社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原理』を基に整理

スライド 108

改訂版タキソノミー

認知過程の次元	内　　容
①想起する	・長期記憶から適切な知識を検索する
②理解する	・音声，筆記，グラフ上でのコミュニケーションを含む，授業上のメッセージから意味を構成する
③応用する	・ある手続をある所与の状況において実行したり使ったりする
④分析する	・物質を構成部分に分けて部分がお互いそして全体構造や目的へとどのように関連しているかを決める
⑤評価する	・基準や標準に基づいて判断を行う
⑥創造する	・諸要素をまとまりのある機能的な全体を形成するようまとめる：諸要素を新しいパターンや構造に再組織する

スライド 109

改訂版タキソノミーと DP を用いた卒業研究評価規準

(ディプロマ・ポリシー)

認知過程の次元	評価規準	DP
⓪基礎	・基礎的な保育・教育の専門的用語は説明できる。 ・一つのテーマを追究していく姿はある。	1
①想起する	・これまでの講義で学んだ保育・教育の専門的用語を再生する ・これまでの実習や体験学習で学んだ専門的な技術・実践力を再認する。	3
②理解する	・研究テーマを説明する。 ・研究内容を要約して書く。	2・3
③応用する	・研究を遂行するための計画を立てる。 ・研究課題を実践により解決する。 ・研究課題を調査により解決する。 ・研究課題を教材開発により解決する。	2・3・5
④分析する	・研究内容を分析する。 ・研究を結論づける。	3・6
⑤評価する	・研究の結論を出すために，どの結果を採用するかを判断する。 ・研究の結論をエビデンスに基づき証明する。	3・6
⑥創造する	・研究の結論を一般化する。	3
⑦応用	・研究の成果を他のことに適応する。	1・2・7

スライド 110

改訂版タキソノミーと DP を用いた卒業研究評価　2019年度

(ディプロマ・ポリシー)

卒業論文・卒業（学士）論文発表会における評価

課題：学生へのフィードバックができておらず，学生の力の向上につながっていない。

	⓪ 基礎	① 想起する	② 理解する	③ 応用する	④ 分析する	⑤ 評価する	⑥ 創造する	⑦ 応用
学生A	3	3	3	3	3	3	2	
学生B	3	3	3	3	3	3	2	
学生C	2	3	3	3	2	2	2	
学生D	2	3	3	3	2	2	2	
学生E	2	2	2	2	2	2	2	

評価－１：規準に足りていない　２：規準到達　３：規準を越えている

スライド 111

改訂版タキソノミーとDPを用いた卒業研究評価　2019年度前期

〇卒業研究への取り組み（前期間）における評価
〇卒業（学士）論文中間発表における評価

課題克服：学生に規準を伝え，フィードバックを定期的に行う。

	⓪ 基礎	① 想起する	② 理解する	③ 応用する	④ 分析する	⑤ 評価する	⑥ 創造する	⑦ 応用
学生F	2	2	2					
学生G	2	2	2					
学生H	2	2	2					
学生I	2	2	2					
学生J	3	2	2					

前期分の為，③以降の項目は評価できず

評価－１：規準に足りていない　２：規準到達　３：規準を越えている

スライド 112

今後に向けた課題

１．評価方法

〇現在の評価規準のルーブリックを作成する

〇作成したルーブリックは，学生に伝える

〇評価結果を学生にフィードバックする

〇学生が自分で自己評価できる
〇教員が評価したものを見る

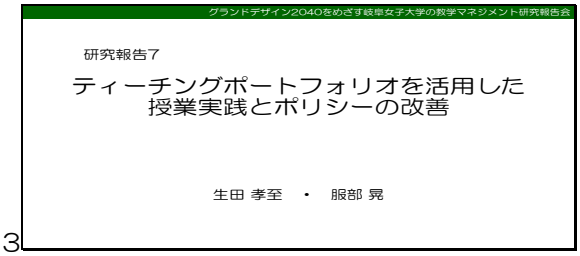
卒業論文への意欲喚起
自分の力の確認

２．ディプロマ・ポリシーの変更

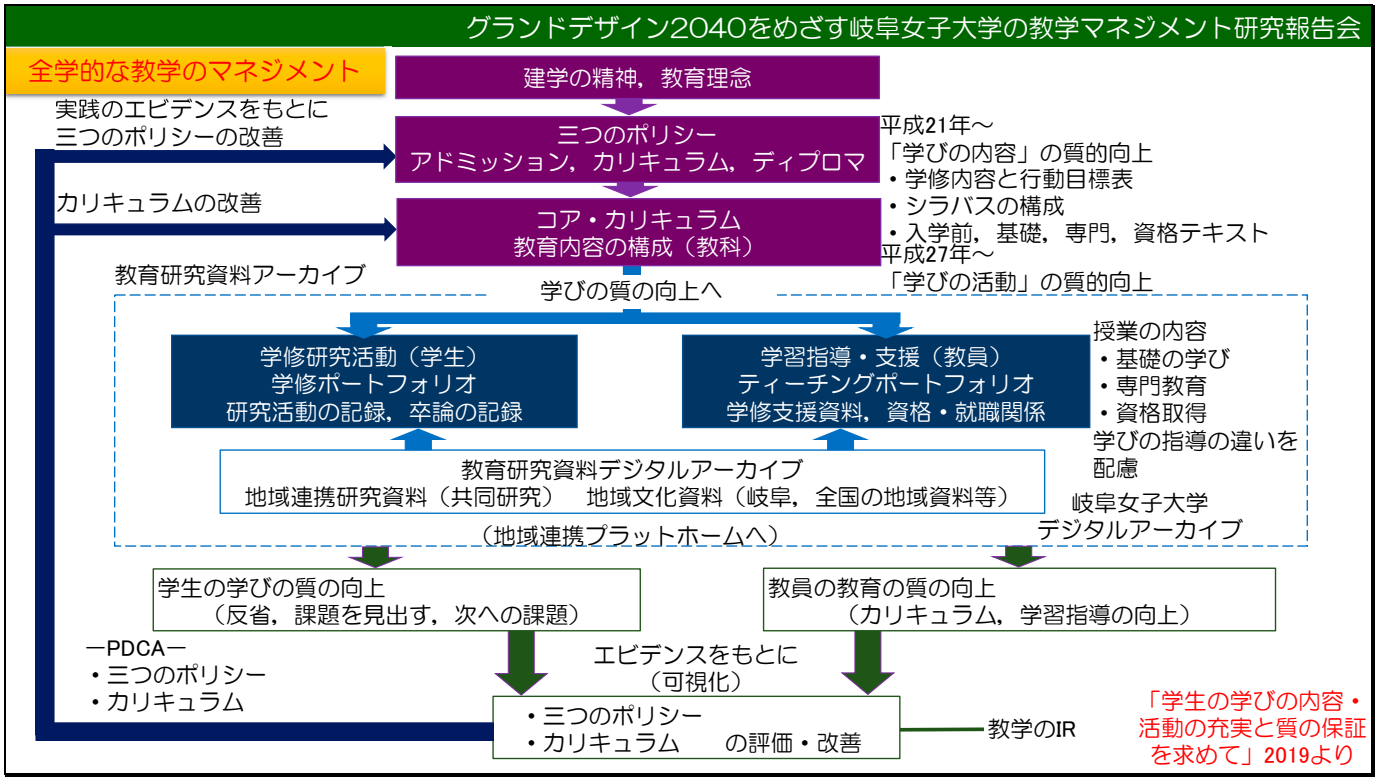
〇現在のディプロマ・ポリシーは，文化創造学部・家政学部として示している。より専門性を明確にするためにも，学科・専攻独自のディプロマ・ポリシーも設定する必要がある。

←卒業研究には，学科・専攻独自の高い専門的知識と技能が求められる

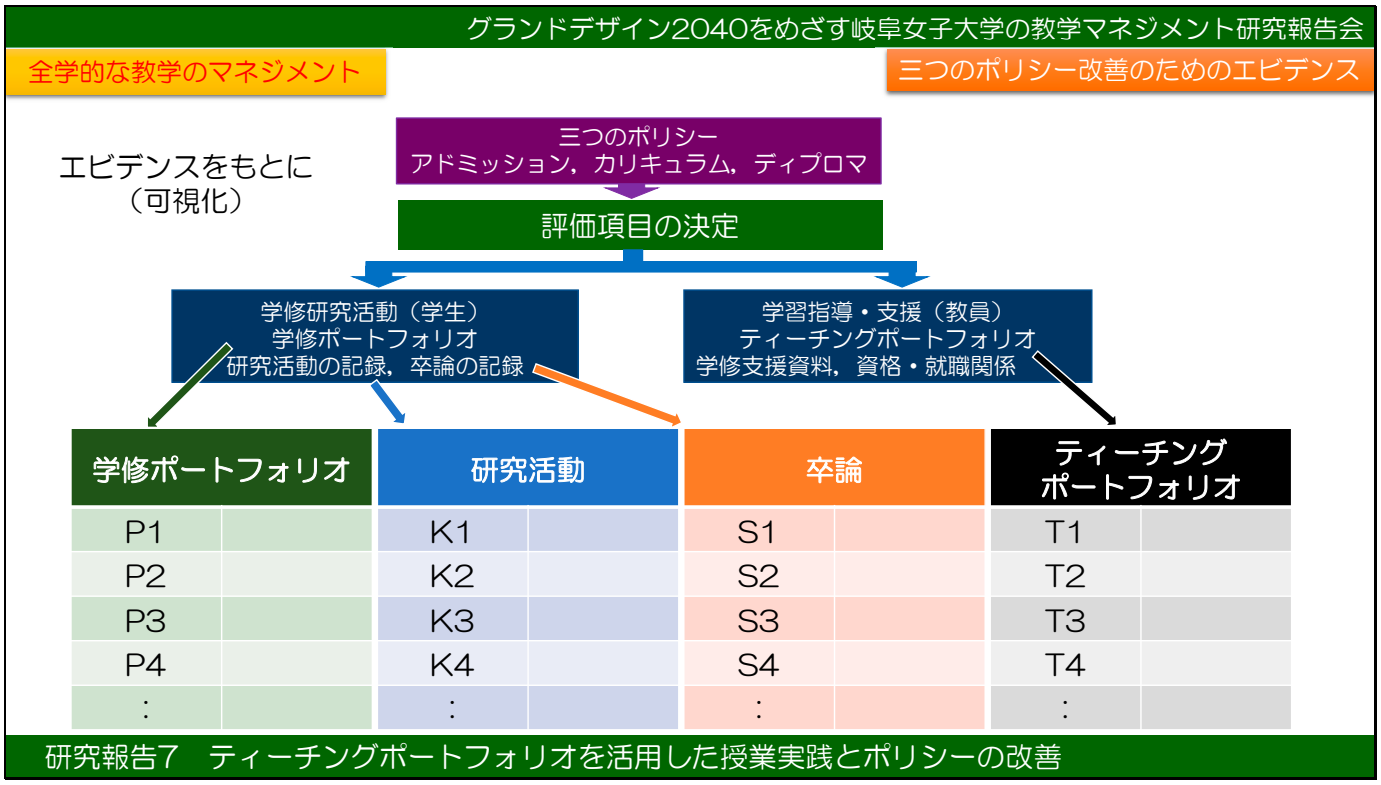
スライド 113



スライド 114



スライド 115



スライド 116

グランドデザイン2040をめざす岐阜女子大学の教学マネジメント研究報告会

全学的な教学のマネジメント　評価項目の決定　三つのポリシー改善のためのエビデンス

学びの評価項目

毎時間、または、数時間

学修ポートフォリオ(授業)	
P1	授業の見通しが持てた
P2	予習ができた
P3	授業(本時)の課題が分かった
P4	主体的な学修ができた
P5	対話的な学修ができた
P6	深い学びができた
P7	意欲的に取り組めた
P8	授業が理解できた
P9	復習ができた

数時間、または、前期・後期

学修ポートフォリオ(認知)	
P10	自分の力が分かった
P11	自分の伸びが分かった

学修ポートフォリオ(能力)	
P12	創造力がついた
P13	計画力がついた
P14	論理的思考力がついた
P15	分析力がついた
P16	チームワークの力がついた
P17	コミュニケーション力がついた
P18	リーダーシップの力がついた
P19	行動力がついた
P20	プレゼンテーション力がついた
P21	社会的責任持てるようになった

研究報告7　ティーチングポートフォリオを活用した授業実践とポリシーの改善

スライド 117

グランドデザイン2040をめざす岐阜女子大学の教学マネジメント研究報告会

全学的な教学のマネジメント　評価項目の決定　三つのポリシー改善のためのエビデンス

学びの評価項目

毎時間、または、数時間

学修ポートフォリオ(授業)	
P1	授業の見通しが持てた
P2	予習ができた
P3	授業(本時)の課題が分かった
P4	主体的な学修ができた
P5	対話的な学修ができた
P6	深い学びができた
P7	意欲的に取り組めた
P8	授業が理解できた
P9	復習ができた

＋

科目特有の項目
(理科基礎の模擬授業の場合)

学修ポートフォリオ(科目)	
P51	見通しを持った観察実験の指導ができた
P52	安全な観察実験の指導ができた
P53	正しい観察実験の指導ができた
P54	正しい結果処理の指導ができた
P55	科学的な見方や考え方の指導ができた

研究報告7　ティーチングポートフォリオを活用した授業実践とポリシーの改善

スライド 118

グランドデザイン2040をめざす岐阜女子大学の教学マネジメント研究報告会

全学的な教学のマネジメント　評価項目の決定　三つのポリシー改善のためのエビデンス

研究の評価項目

研究活動	
P1	興味のある研究分野を見つける
P2	興味のある研究分野について調べる
P3	論文を読み、項目別にまとめ、整理、保存する
P4	研究テーマを決める
P5	研究方法について調べる
P6	実験、調査等の研究方法の原理を理解する
P7	研究の道筋を考える
P8	実験、調査等の結果を予測する
P9	実験、調査等の記録をとる
P10	研究結果をレポートなどにまとめる

研究報告7　ティーチングポートフォリオを活用した授業実践とポリシーの改善

スライド 119

グランドデザイン2040をめざす岐阜女子大学の教学マネジメント研究報告会

全学的な教学のマネジメント　評価項目の決定　三つのポリシー改善のためのエビデンス

学位条件としての評価項目

卒論	
P1	興味のある研究分野を見つける
P2	興味のある研究分野について調べる
P3	論文を読み、項目別にまとめ、整理、保存する
P4	研究テーマを決める
P5	研究方法について調べる
P6	実験、調査等の研究方法の原理を理解する
P7	研究の道筋を考える
P8	実験、調査等の結果を予測する
P9	実験、調査等の記録をとる
P10	研究結果を論文などにまとめる

卒論(能力)	
P12	創造力がついた
P13	計画力がついた
P14	論理的思考力がついた
P15	分析力がついた
P16	チームワークの力がついた
P17	コミュニケーション力がついた
P18	リーダーシップの力がついた
P19	行動力がついた
P20	プレゼンテーション力がついた
P21	社会的責任が持てるようになった

研究報告7　ティーチングポートフォリオを活用した授業実践とポリシーの改善

スライド 120

グランドデザイン2040をめざす岐阜女子大学の教学マネジメント研究報告会

全学的な教学のマネジメント　評価項目の決定　三つのポリシー改善のためのエビデンス

教育内容と指導法の評価項目

	ティーチングポートフォリオ	
準備	T1	シラバス作成に役立った
	T2	ティーチングポートフォリオメタデータ作成に役立った
	T3	授業の教材作成に役立った
	T4	学修成果の設定に役立った
	T5	授業設計に役立った
授業	T6	授業(本時)の課題設定に役立った
	T7	主体的な学修に役立った
	T8	対話的な学修に役立った
	T9	深い学びに役立った
	T10	学生の意欲を高めるのに役立った
	T11	学生の理解を深めるのに役立った

	ティーチングポートフォリオ	
評価	T12	診断的アセスメントに役立った
	T13	形成的アセスメントに役立った
	T14	総括的アセスメントに役立った
改善	T15	シラバス改善に役立った
	T16	ティーチングポートフォリオメタデータ改善に役立った
	T17	授業方法の改善に役立った
	T18	授業の教材改善に役立った
	T19	授業設計の改善に役立った
家庭学修	T20	学生の予習に役立った
	T21	学生の復習に役立った

研究報告7　ティーチングポートフォリオを活用した授業実践とポリシーの改善

スライド 121

グランドデザイン2040をめざす岐阜女子大学の教学マネジメント研究報告会

全学的な教学のマネジメント

準備	T1	シラバス作成に役立った
	T2	ティーチングポートフォリオメタデータ作成に役立った
	T3	授業の教材作成に役立った
	T4	学修成果の設定に役立った
	T5	授業設計に役立った
授業	T6	授業(本時)の課題設定に役立った
	T7	主体的な学修に役立った
	T8	対話的な学修に役立った
	T9	深い学びに役立った
	T10	学生の意欲を高めるのに役立った
	T11	学生の理解を深めるのに役立った
評価	T12	診断的アセスメントに役立った
	T13	形成的アセスメントに役立った
	T14	総括的アセスメントに役立った
改善	T15	シラバス改善に役立った
	T16	ティーチングポートフォリオメタデータ改善に役立った
	T17	授業方法の改善に役立った
	T18	授業の教材改善に役立った
	T19	授業設計の改善に役立った
家庭学修	T20	学生の予習に役立った
	T21	学生の復習に役立った

事実的認識　：単語や知識などを知っている
概念的知識　：分類や区分などの系統を知っている
遂行的(手続き的)知識：経験則やパターン、利用シーンを知っている
メタ認知的知識　：自分がどのように感じているかを知っている

改訂版タキソノミー　←　アクティブ・ラーニング
活用主体：初中等教育段階の現場教員
(評価，教授法選択，組織における有効性を含む)

改訂版タキソノミー L.W.Anderson,D.R.Krathwohl		認知過程次元					
		記憶	理解	応用	分析	評価	創造
知識次元	事実的	①	②				
	概念的			③			④
	手続き的			⑤	⑥		
	メタ認知的				⑦		⑧

本学の授業の「理科基礎(3～5コマ・模擬授業)」にあてはめた場合

①学習指導要領に示された単元の内容を知っている
②学習指導要領に示された単元の内容を理解できる
③単元の構造を分析し、本時のめあてを設定できる
④子どもをイメージして学習指導要領に示された内容を学習指導案に記述できる
⑤学習指導案に沿って模擬授業を実施する
⑥評価の観点に沿って模擬授業を分析・評価する
⑦模擬授業を実施して子ども役の学生の反応から、うまくいかないところの原因を自分で考える
⑧明らかになった原因を解決する方法を考えて、学習指導案を改善する

研究報告7　ティーチングポートフォリオを活用した授業実践とポリシーの改善

スライド 122

グランドデザイン2040をめざす岐阜女子大学の教学マネジメント研究報告会

全学的な教学のマネジメント

三つのポリシー改善のためのエビデンス

学生の学びの状態と教員の指導の状況と評価				学年				
(A)	(B)	(C)	(D)	1年	2年	3年	4年	評価者
1)学修ポートフォリオ（当面，コア・カリキュラム主要科目）	学びの評価項目 P1,P2,P3…	評価項目による評価と教師の評価	個の評価（入学から基礎）	基礎教育		専門教育		自己評価 教師による個の評価
2)学生の研究活動（主体的学修）	研究の評価項目 K1,K2,K3…	評価項目による評価と教師の評価	学びと研究の追求態度，知識，技能		研究			自己評価 教師による個の評価
3)卒業論文（個人またはグループ）	学位条件としての評価項目 S1,S2,S3…	評価項目による評価と教師の評価	学位に相当する力（個の伸び）			卒論		自己評価 教師による個の評価
4)ティーチングポートフォリオ（ビデオ記録分析）	教育内容と指導法の評価項目 T1,T2,T3…	教育方法と内容の達成状況の評価	カリキュラムの評価改善	基礎教育		専門教育		教師による個の評価

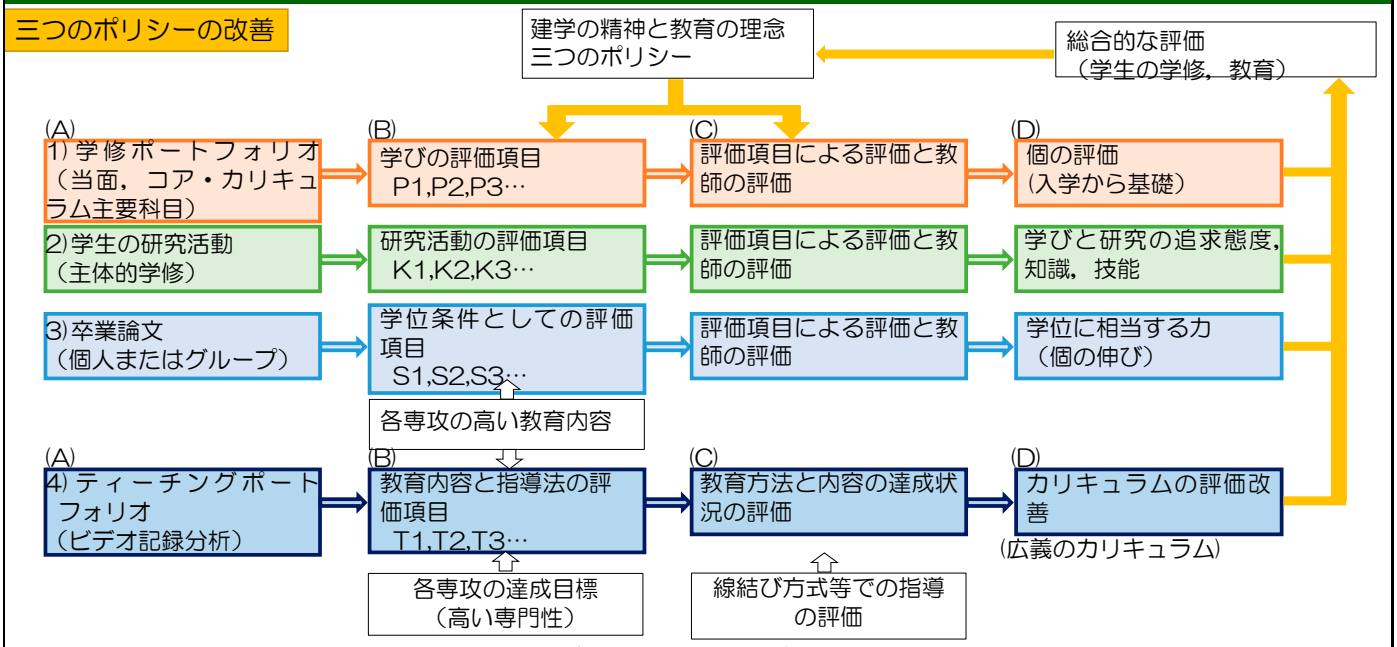
「学生の学びの内容・活動の充実と質の保証を求めて」2019より

研究報告7　ティーチングポートフォリオを活用した授業実践とポリシーの改善

スライド 123

グランドデザイン2040をめざす岐阜女子大学の教学マネジメント研究報告会

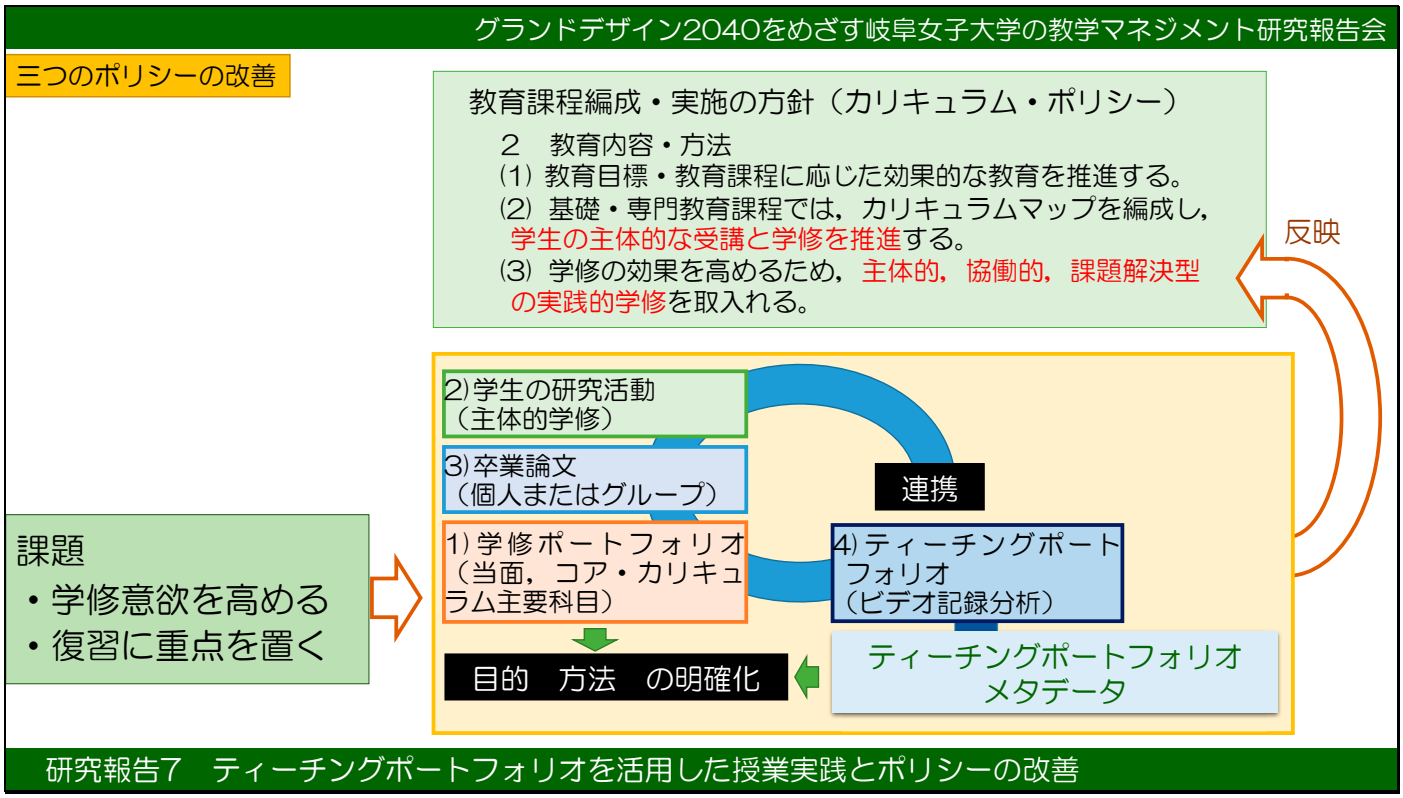
三つのポリシーの改善



学生の学びの状態と教員の指導の状況と評価
（「学生の学びの内容・活動の充実と質の保証を求めて」2019より）

研究報告7　ティーチングポートフォリオを活用した授業実践とポリシーの改善

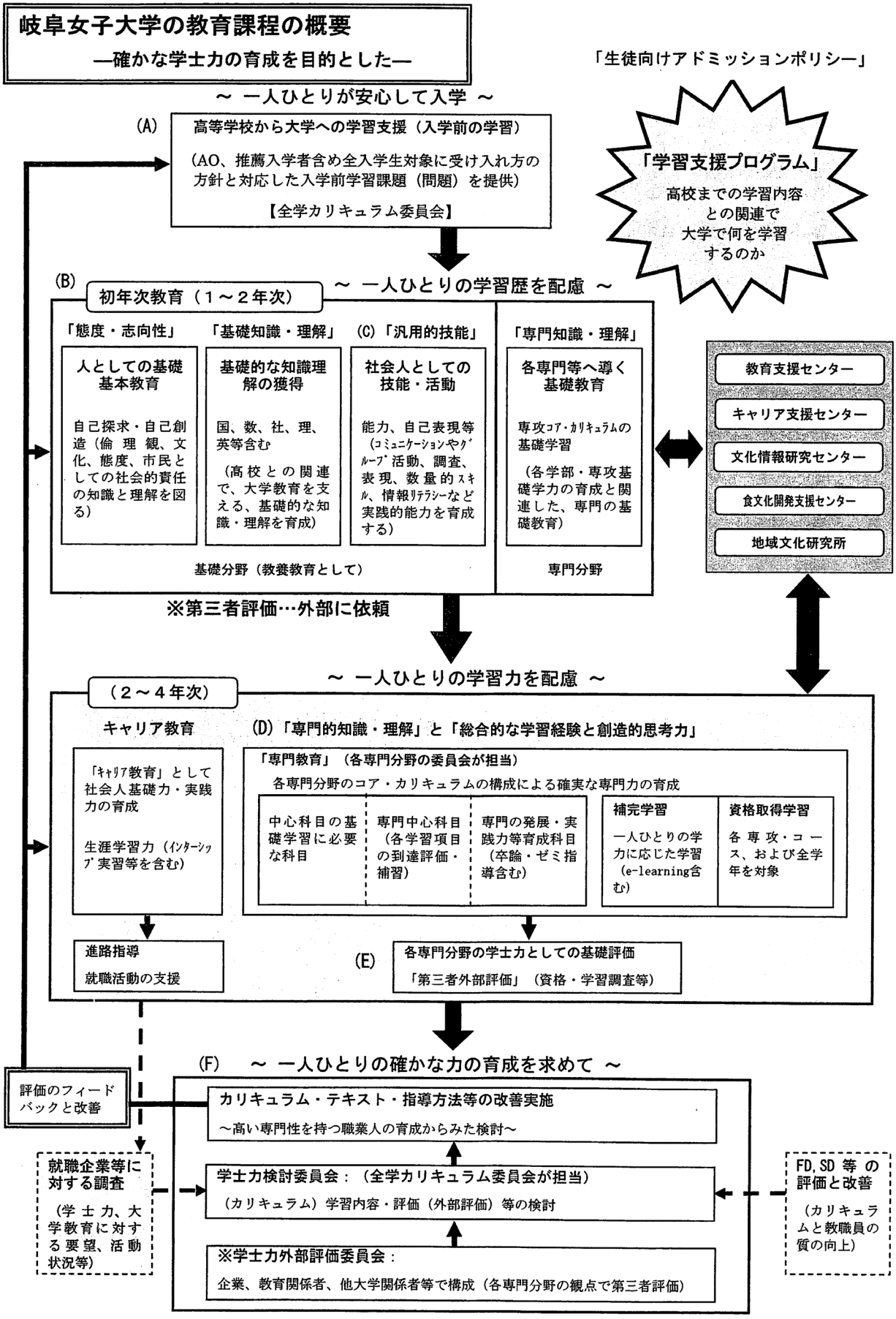
スライド 124


グランドデザイン2040をめざす岐阜女子大学の教学マネジメント研究報告会
三つのポリシーの改善
教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）
２　教育内容・方法
⑴ 教育目標・教育課程に応じた効果的な教育を推進する。
⑵ 基礎・専門教育課程では，カリキュラムマップを編成し，学生の主体的な受講と学修を推進する。
⑶ 学修の効果を高めるため，主体的，協働的，課題解決型の実践的学修を取入れる。
反映
課題
・学修意欲を高める
・復習に重点を置く
2)学生の研究活動（主体的学修）
3)卒業論文（個人またはグループ）
1)学修ポートフォリオ（当面，コア・カリキュラム主要科目）
連携
4)ティーチングポートフォリオ（ビデオ記録分析）
目的　方法　の明確化
ティーチングポートフォリオメタデータ
研究報告7　ティーチングポートフォリオを活用した授業実践とポリシーの改善

総　括

グランドデザイン2040をめざす岐阜女子大学の教学マネジメント研究

林徳治教授(甲子園大学)



出典:「社会ニーズに対応した学士力と高い就職率を目指す教育」最終報告
文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」「学生支援推進プログラム」採択(H21 年度から H23 年度)より

平成 21 年度「大学教育・学生支援推進事業」　【テーマ B】学生支援推進プログラム

H21 年度採択「社会人ニーズに対応した学力と高い就職率・定着率を目指す教育」活動の概要

<table>
<tr><th>年度</th><th>平成 21 年度 (2009)</th><th>平成 22 度 (2010)</th><th>平成 23 年度 (2011)</th></tr>
<tr><td>実施計画</td><td>・企業(就職先)学生の調査
・キャリア形成支援システムの授業
業種別コンピテンシーモデルの作成
・入学前学習支援の実施
・基礎テキストの作成
・学習コンテンツの作成
・アドバイザーに指導資料の提供
・就職支援・基礎講座の開催
・シンポジウムの開催</td><td>・企業(就職先)学生の調査
・キャリア形成支援システムの授業
業種別コンピテンシーモデルの作成
・H21 年度の改善作成および入学前学習支援の実施
・基礎テキストの作成(高大連携、就職指導テキスト)
・学習コンテンツの作成
・アドバイザーに指導資料の提供
・就職支援・基礎講座の開催
・シンポジウムの開催</td><td>・企業(就職先)学生の調査
・キャリア形成支援システムの授業
業種別コンピテンシーモデルの作成
・H21 年度の改善作成および入学前学習支援の実施
・基礎テキストの作成(高大連携、就職指導テキスト)
・学習コンテンツの作成
・アドバイザーに指導資料の提供
・就職支援・基礎講座の開催
・シンポジウムの開催</td></tr>
<tr><td>成果物(テキスト等)</td><td>・入学前学習支援テキスト作成
(各学科・専攻ごと、対象は AO・推薦入学者)
・初年次用テキストの作成(保管教育用)
主要 5 教科
<table><tr><td>国語</td><td>数学</td><td>理科</td><td>社会</td><td>英語</td></tr></table>
・住居学専攻　初年次教育用テキストの作成
H21 年 4 月　継続取組み中のものを見直し決定
コア・カリキュラム構成の設定と学習内容・行動目標の設定
・業種別コンピテンシーモデル作成着手</td><td>・各学科・専攻　専門基礎テキスト作成
<table><tr><td>健康栄養学科</td><td>食べ物と健康</td></tr><tr><td>生活科学専攻</td><td>子どもの生活をつくる教育者保育者のための専門基礎 I</td></tr><tr><td>住居学専攻</td><td>はじめての建築学</td></tr><tr><td>子ども発達専修</td><td>教師論</td></tr><tr><td>学校教育専修</td><td>教職実践演習</td></tr><tr><td>書道・国語専修</td><td>書道・書写の基礎</td></tr><tr><td></td><td>言語学</td></tr><tr><td>観光専修</td><td>国内旅行業務</td></tr><tr><td>アーカイブ</td><td></td></tr></table>
・業種別コンピテンシーモデルの作成・運用開始
H21 年度就職率 98%</td><td>・各学科・専攻　資格取得ガイドブック作成
<table><tr><td>健康栄養学科</td><td>管理栄養士</td></tr><tr><td>生活科学専攻</td><td>家庭科教員採用試験
保育士採用試験</td></tr><tr><td>住居学専攻</td><td>2 級建築士資格取得ガイド
インテリアコーディネータ資格取得ガイド</td></tr><tr><td>初等教育学専攻</td><td>教員採用試験</td></tr><tr><td>書道・国語専修</td><td>毛筆書写検定・硬筆書写検定</td></tr><tr><td></td><td>日本語教員資格取得問題集</td></tr><tr><td>観光専修</td><td>総合旅行業務取扱管理者試験</td></tr><tr><td>アーカイブ</td><td>デジタルアーキビスト資格取得ガイド</td></tr></table>
・各学科・専攻　自分の特性に適した就業力を高めるための資格取得ガイド(WEB 版)
・業種別コンピテンシーモデルの作成・運用開始
H22 年度就職率 97%</td></tr>
<tr><td>就職関連</td><td>・就職支援対策講座 I　4 日間(8/21～27)
・就職支援対策講座 II　12 日間(3/15～20、3/22～27)
・集中講義(教職教養)　2/15、2/17～19 …15 コマ
・企業訪問によるアンケート調査、分析
・高校にアンケート調査実施・分析</td><td>・就職支援対策講座 I　7 日間(8/23～29)
・就職支援対策講座 II　12 日間(3/14～19、3/21～26)
・直前対策講座(教職教養等)　6/22、27 … 6 コマ
・直前対策講座(小学校全科)　7/2～5 … 10 コマ
・教員採用対策集中講義　2/7～11…15 コマ
・マナー講座　6/24、2/22
・企業訪問によるアンケート調査、分析
・高校にアンケート調査実施・分析</td><td>・就職支援対策講座 I　7 日間(8/22～28)
・就職支援対策講座 II　4 日間
・集中講義(4 年教職教養)　5/16～18 …6 コマ
・集中講義(3 年教職教養)　2/13～17 …15 コマ
・企業訪問によるアンケート調査、分析
・高校にアンケート調査実施・分析</td></tr>
<tr><td>評価委員会</td><td>外部評価委員会
・H22 年 2 月 6 日(土)　18:00～
(於文化情報研究センター)</td><td>外部評価委員会
・H23 年 2 月 12 日(土)　16:00～
(於文化情報研究センター)</td><td>外部評価委員会
・H23 年 7 月 7 日(木)　18:00～
・H23 年 8 月 21 日(日)　18:00～
・H23 年 11 月 26 日(土)　16:00～
(於:文化情報研究センター)</td></tr>
<tr><td>報告会</td><td>H22 年 2 月 7 日(日)　13:00～</td><td>H22 年 2 月 13 日(日)　13:00～</td><td>H24 年 2 月 11 日(土)　10:00～ (於文化情報研究センター)</td></tr>
<tr><td>関連</td><td></td><td>H23 年 1 月 25 日(火)ポスター展示 (於東京)
「H22 年度大学教育改革プログラム合同フォーラム」</td><td>H23 年 9 月 30 日(金) (於東京)
「H23 年度就職に関する意見交換会」</td></tr>
</table>

出典:「社会ニーズに対応した学士力と高い就職率を目指す教育」最終報告
文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」「学生支援推進プログラム」採択(H21 年度から H23 年度)より

グランドデザイン2040をめざす岐阜女子大学の教学マネジメント研究報告会

住居学専攻
コア・カリキュラム構成の設定と学習内容・行動目標

育成する人物像
住むひとの『満足する住環境を創造できる』スペシャリスト
（卒業時二級建築士合格レベルの知識を有する）

教育目標
住環境に関する専門知識と技術を習得し、住環境の安全・安心快適性の確保、健康・環境問題等を幅広く対応出来る実践力と感性を有した人材を育成し社会の発展に寄与することを目的とする。

入学前課題

ｺｱ・ｶﾘｷｭﾗﾑを構成するひとつの力学・構造についての知識を得るための準備として、入学前の補完学習課題『数学基礎』講座により1、2、3年次に学習する構造力学の基礎学力を身につける。

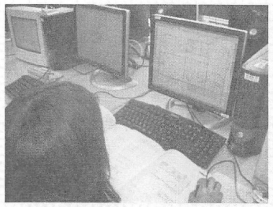
＜ｺｱ・ｶﾘｷｭﾗﾑ＞
育成する人物像として住むひとの『満足する住環境を創造できる』ｽﾍﾟｼｬﾘｽﾄを目指す。この習得知識ﾚﾍﾞﾙとして、卒業時に二級建築士合格ﾚﾍﾞﾙを目標とする。
建築士試験科目である5科目、計画・設備・建築法規・構造・施工に設計製図実技の学びをｺｱ・ｶﾘｷｭﾗﾑとして構成する。
設計論・製図はｺｱ・ｶﾘｷｭﾗﾑの学びを総合化したものであり、ﾒｲﾝｺｱ・ｶﾘｷｭﾗﾑとして位置づける。

■コア・カリキュラムとそれを構成する科目

建築全般についての計画力
①建築計画、環境工学、設備についての基礎知識を習得
②演習問題解答により二級建築士合格ﾚﾍﾞﾙの知識習得
科目：建築計画Ⅰ・Ⅱ、環境工学、ﾘﾌｫｰﾑ建築論、建築設備Ⅰ・Ⅱ、環境設備専門演習Ⅰ・Ⅱ

設計・作図能力（ﾒｲﾝｺｱ・ｶﾘｷｭﾗﾑ）
①設計・製図の描き方の基礎習得
②各種建物用途・構造の設計・製図について習得
③ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ手法の習得
科目：基礎製図、設計論・製図Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ、CAD演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、卒業研究

力学・構造についての知識
①構造力学を学ぶため数学の基礎知識を習得
②構造力学の基礎的な概念を習得
③演習問題を解くことにより実践的な問題解析能力を習得
科目：構造力学基礎Ⅰ・Ⅱ、構造力学Ⅰ・Ⅱ
建築構造専門演習Ⅰ・Ⅱ


＜CAD演習＞

住むひとの『満足する住環境を創造できる』
ｽﾍﾟｼｬﾘｽﾄの育成

＜特別ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ実習＞

建築関連法知識
①建築基準法を中心に関連法規の基礎を習得
②演習問題解答により二級建築士合格ﾚﾍﾞﾙの知識習得
科目：建築法規、建築法規専門演習Ⅰ・Ⅱ

①社会人として恥ずかしくない知識、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力の習得
②専門領域の活動をする上で必要となるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力の習得
科目：ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力育成講座（集中講座）

コミュニケーション能力

施工・施工計画についての知識
①構造種別、工事種別ごとに建築施工についての基礎知識を習得
②演習問題により二級建築士合格ﾚﾍﾞﾙの知識を習得
科目：建築施工、建築施工専門演習Ⅰ・Ⅱ
測量

＜専門教育の学習と評価＞
授業科目：設計論・製図Ⅳ
開講学年：3年前期
学習項目：
①集合住宅の機能を理解し、集合住宅設計の基礎を学ぶ
②建築関連法規の知識を習得し、集合住宅の団地・配置計画を学ぶ
評価内容
Ⅰ自己評価
Ⅱ教員による評価など

＜履修前後の学習内容評価の達成状況調査（学生による自己評価）＞
授業科目：設計論・製図Ⅳ
開講学年：3年前期
達成ﾚﾍﾞﾙ：自己評価
①友達に聞いてできる
②ﾌﾟﾘﾝﾄを見ればできる
③1人でできる自信がある
④他の人に説明ができる
評価項目：
Ⅰ集合住宅の機能（住環境）
(a)住棟を構成する共用・専用部が分かる
(b)住棟の共用部分の機能が分かり、具体的な所要室が分かる
(c)住棟の専用部分の機能が分かり、具体的な所要室が分かるなど

目指すｷｬﾘｱ：二級建築士、宅地建物取引主任者、ｲﾝﾃﾘｱｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ、福祉住環境ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ

2020～
グランドデザイン2040をめざす岐阜女子大学の教学マネジメント研究
・個々人の学修成果の可視化
など

2012～
グランドデザイン2040をめざす岐阜女子大学の教学マネジメント研究
・全学的な教学マネジメントの確立
・学修成果の可視化と情報公表の促進

「社会ニーズに対応した学士力と高い就職率を目指す教育」最終報告、文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」「学生支援推進プログラム」採択
(H21年度からH23年度)

第Ⅱ部

岐阜女子大学教学マネジメント研究

～学生の学びの内容・活動の充実と質の保証を求めて～

【特集】

学びの記録と質の保証のための学修ポートフォリオの活用

Inflection of the Portfolio for a Record of the Learning and a Guarantee of the Quality

三宅　茜巳*1　横山　隆光*2

和文抄録：学修ポートフォリオを活用した学修について，学生は「主体的な学修ができた」「対話的な学修ができた」「深い学びができた」「意欲的に取り組めた」「計画力がついた」「分析力がついた」「創造力がついた」と感じているとこが分かった。このことは，シラバスやティーチングポートフォリオメタデータにより見通しを持って受講するのに加えて，学修ポートフォリオを活用した学修によるリフレクションの効果と思われた。

<キーワード>学修ポートフォリオ，ティーチングポートフォリオ，シラバス，授業改善，メタデータ，Evernote，サイボウズ，カリキュラム

１．はじめに

学修ポートフォリオは，学生が課題解決のために収集した資料，授業で作成したレポートや論文，履修科目等の記録などの学修成果を保管するものである。学修ポートフォリオを利用すれば，大学での学びや自分の成長を振り返り、授業や学期の目標を立て，就職活動に役立てることができる。学修ポートフォリオの作成を継続することにより，到達度を把握し，学期末の振り返りを作成し，リフレクション(省察)を行い，次の課題をみつけるという学修をデザインし，ステップアップを図る自律的な学修が可能になる。

教員は，学修ポートフォリオによる学修成果の可視化により，学生の自律的な学修を支援する必要がある。教育活動の質を保証するため，本学では学生の学修研究活動を支える学修ポートフォリオ、教員の学修指導・支援を支えるティーチングポートフォリオ，教育研究資料デジタルアーカイブの３つを連携させ，全学的な共学マネジメントを構築している。本稿では、全学の学びの記録と質の保証のための学修ポートフォリオの活用について報告する。

２．学修ポートフォリオの作成

学修ポートフォリオは，大学生活での学修や経験,課題解決までのプロセス等を蓄積し，学修状況等を振り返ることにより，学修を深化させ，キャリアデザインに活かすことを目的としている。そこで，本学では大学４年間を通した全学での学修ポートフォリオの活用のため，コア・カリキュラム主要教科から導入を始めている。

学修ポートフォリオの継続的な活用は，学生が学修ポートフォリオの有用性を理解して初めて可能になる。林(2013)は「学修自己評価の意義を認識させ定着させるには初年次教育が重要であることを示している」[1)]と報告している。1 年生から学修ポートフォリオに取り組むことが大切であり，本学では全学の 1 年生が前期に学修ポートフォリオの意味や活用方法などについて学ぶ授業を設定している。2019 年度の学修ポートフォリオに関する内容を扱う授業の日程・内容を表 1 に示す。学修ポートフォリオに関する内容を扱う授業第 1 回は学修ポートフォリオの意味の理解，第 2 回は学修ポートフォリオの作成方法と留意点，第 3 回は学修ポートフォリオの活用方法である。1 年生は，学修ポートフォリオに関する内容を扱う授業後の 7 月から学修ポートフォリオを作成している。

＊1 MIYAKE,Akemi　＊2 YOKOYAMA,Takamitsu　岐阜女子大学

表１　ポートフォリオの授業の日程・内容

期日	内容
2019/6/10 第１回	・学修ポートフォリオの意味 ・学修を振り返る ・学修成果を記録する
2019/6/17 第２回	・Evernote での学修ポートフォリオの保管 ・サイボウズでのティーチングポートフォリオメタデータの閲覧 ・情報モラル(ネットでの公開の危険性，個人情報，肖像権，著作権など)
2019/6/24 第３回	・学修ポートフォリオと本学の推進するブランディング事業 ・学修ポートフォリオの活用

学修ポートフォリオは，いつでもどこでも記録･閲覧できるよう Evernote で作成する。学修ポートフォリオの活用はコア・カリキュラム主要教科から始めており，学生は複数の科目のポートフォリオを作成する。学修ポートフォリオを複数の科目で毎時間作成するため，前期だけで 15 コマ×科目数だけ作成されることになる。学修ポートフォリオは，1～4 年生の 4 年間作成するため多くの学修ポートフォリオが作成される。多くの学修ポートフォリオから目的の学修ポートフォリオを探し出すためキーワード検索を用いる。そこで，学生には検索しやすいキーワードの記載方法について説明している。

講義や演習などの授業形態や科目の内容により学修ポートフォリオに記録すべき項目が異なる。演習などでは，実験や製作過程を写真や動画で記録することが振り返りやプレゼンテーションに有効である。そのため，学期初めには各科目の１コマ目で学修ポートフォリオの作成方法について説明する。説明のためのシラバスやティーチングポートフォリオメタデータを作成し,授業前に登録する項目，授業中や授業後に記録する項目について明らかにしている。

説明の際，あらかじめ提示する項目のサンプルとして「理科基礎」の項目を表２に示す。「タイトル」「①日時」「②キーワード」「③本時の課題」は，ティーチングポートフォリオメタデータを参考に授業前に記載する。「タイトル」「①日時」「②キーワード」は，検索でヒットするよう具体的に記録する。「④授業の様子」は，模擬授業の学習指導案，記録写真，自己評価，他者評価，振り返り，改善案などの記録である。授業中の実験の様子や製作過程の写真や動画から必要なものを選んで記録する。「⑤振り返り」は，本時の成果，次時の課題につながる本時の問題点，自己評価を記載する。④と⑤は，授業の最後のティーチングポートフォリオの作成時間，または，授業後に記載する。１年生では学修ポートフォリオの Evernote への記録の習慣化を図るため，授業の最後にティーチングポートフォリオ作成時間を設けて，必要に応じて教員が支援しながら記載させている。

表２　理科基礎の学修ポートフォリオ記載項目例

タイトル
　例)理科基礎　2019/5/8　４コマ
①日時
　例)5 月 8 日 水曜日 3 時間目　小学校理科模擬授業 1
②キーワード
　例)理科基礎,物質,エネルギー,指導法,学習指導案,学習指導要領,3 年,磁石,4 コマ
③課題
　例)模擬授業：児童主体の授業とするために児童の発話から本時の「課題」を設定する
④授業の様子
　模擬授業の学習指導案，記録写真，自己評価，他者評価，振り返り，改善案等
⑤振り返り
・成果
　本時の成果をテキストで記載
・課題
　次時の課題につながる本時の問題点や解決しなければならせないことをテキストで記載
・評価
　本時の評価の観点に従って３段階で記載

３．学びの評価

教員は，シラバスとシラバスを詳しく記述

したティーチングポートフォリオメタデータを作成し，学修の準備や内容などを学生がサイボウズで閲覧できるよう授業前に公開している。授業後，ティーチングポートフォリオを作成し，準備物や授業展開などに変更があればティーチングポートフォリオメタデータを更新し，授業の評価をフィードバックさせている。

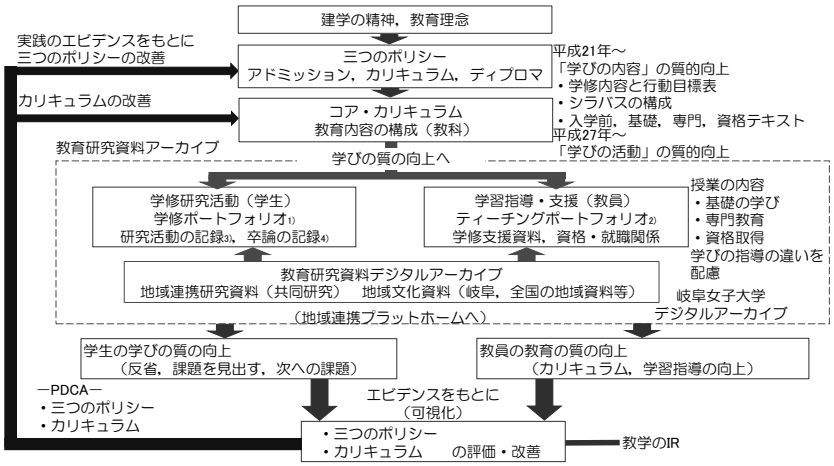


図１　全学的な教学のマネジメント(松川，2019)

学生は，授業の準備や展開，予習・復習にシラバスとティーチングポートフォリオメタデータを利用する。学修ポートフォリオは学生が日々の学修を記録するものであり，教員は学修の様子や学修ポートフォリオを参考にして，ティーチングポートフォリオメタデータにフィードバックする。学修ポートフォリオとティーチングポートフォリオメタデータには密接な関係がある。

表３　学びの評価項目

P1.授業の見通しが持てた
P2.予習ができた
P3.授業(本時)の課題が分かった
P4.主体的な学修ができた
P5.対話的な学修ができた
P6.深い学びができた
P7.意欲的に取り組めた
P8.授業が理解できた
P9.復習ができた
P10.自分の力が分かった
P11.自分の伸びが分かった
P12.創造力がついた
P13.計画力がついた
P14.論理的思考力がついた
P15.分析力がついた
P16.チームワークの力がついた
P17.コミュニケーション力がついた
P18.リーダーシップの力がついた
P19.行動力がついた
P20.プレゼンテーション力がついた
P21.社会的責任が持てるようになった

表４　追加する項目(理科基礎)

P51.見通しを持った観察実験の指導ができた
P52.安全な観察実験の指導ができた
P53.正しい観察実験の指導ができた
P54.正しい結果処理の指導ができた
P55.科学的な見方や考え方の指導ができた

教育活動の評価，改善にあたり，学修ポートフォリオ，および，ティーチングポートフォリオが重要な役割を果たしている。学生の学びの状態と教員の指導の状況の評価は図 1 に示す松川(2019)らによる「1)学修ポートフォリオ」「2)学生の研究活動」「3)卒業論文」「4)ティーチングポートフォリオ」で行う。評価の項目は，三つのポリシーに基づいて作成する。「1)学修ポートフォリオ」の「学びの評価項目」を表 3 に示す。学びの評価項目は，基礎科目と専門科目共通とし，評価項目 P1～9 の授業に関する項目(授業)，評価項目 P10～11 の自己の伸びの自覚に関する項目(認知)，評価項目 P12～21 の本学の教育理念に直結する能力に関する項目(能力)である。これらの科目共通の評価項目に加えて，科目によって必要となる項目を追加して評価する。追加する項目例として，理科基礎の観察実験の評価項目を表 4 に示す。

４．学生の意識

（１）学生の意識調査

表５　学年

学年	人数
１年	０人
２年	39 人
３年	147 人
４年	６人

表６　ティーチングポートフォリオの活用

活用・未活用	人数
1:活用	176 人
2:未活用	17 人

表７　授業形態

授業形態	人数
1:講義	37 人
2:演習を含む講義	76 人
3:演習	80 人
4:実験	０人
5:フィールドワーク	０人
6:ゼミナール	０人

表８　受講人数

受講人数	人数
1:1～107	８人
2:11～20	74 人
3:21～30	78 人
4:31～40	33 人
5:41～50	０人
6:51～100	０人
7:101～	０人

ティーチングポートフォリオと学修ポートフォリオを取り入れた授業に対する学生の意識について調べた。調査対象は，ポートフォリオを取り入れた授業を 2019 年度前期の 1 コマから受講した 2～4 年生である。調査は前期終了時に質問紙法で実施した。比較のためティーチングポートフォリオと学修ポートフォリオを取り入れていない授業を受講した学生の意識も調査した。有効回答数 194 人で，内訳として学年を表 5，ティーチングポートフォリオの活用・未活用を表 6，授業形態を表 7，受講人数を表 8 に示す。質問項目は，「1)学修ポートフォリオ」の「学びの評価項目」である。「1：あてはまらない，2：ややあてはまらない，3：どちらともいえない，4：ややあてはまる，5：あてはまる」の 5 件法で回答させた。

「授業」に関する項目の回答，得点平均，標準偏差を図 2 に示す。「P3.授業(本時)の課題が分かった」(μ=3.84, σ=1.01) の得点平均は，「P4.主体的な学修ができた」(μ=3.72, σ=1.00)より有意に高く(t(175)=2.595,p<.05)，「P1.授業の見通しが持てた」(μ=3.69, σ=0.95)より有意に高く(t(175)=2.680,p<.01)なっていた。「P7.意欲的に取り組めた」(μ=3.81, σ=1.00)の得点平均は，「P6.深い学びができた」(μ=3.63, σ=0.91)より有意に高く(t(174)=3.188,p<.01)，「P9.復習ができた」(μ=3.48, σ=1.18)より有意に高く(t(175)=3.651, p<.01)なっていた。「P8.授業が理解できた」(μ=3.78, σ=1.00)の得点平均は，「P9.復習ができた」より有意に高く(t(175)=3.418,p<.01)，「P5.対話的な学修ができた」(μ=3.42, σ=1.08)より有意に高く(t(175)=4.184,p<.01)なっていた。

「P2.予習ができた」(μ=3.21, σ=1.10)の得点平均は「P5.対話的な学修ができた」より有意に低く(t(141)=2.344,p<.05)，「P9.復習ができた」より有意に低く(t(175)=3.097,p<.01)なっていた。「P5.対話的な学修ができた」の得点平均は「P6.深い学びができた」より有意に低く(t(173)=2.923,p<.01)，「P1.授業の

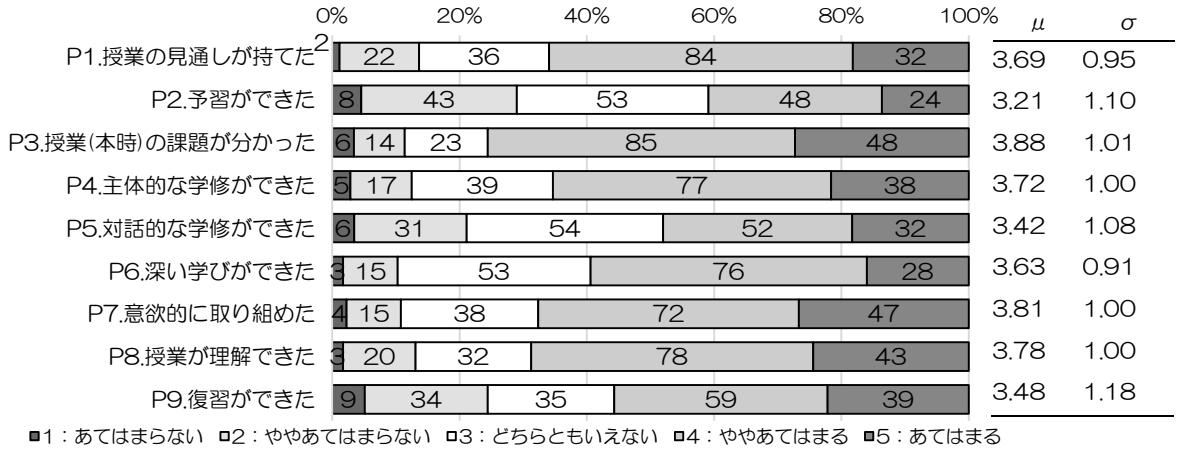


図2　授業に関する質問

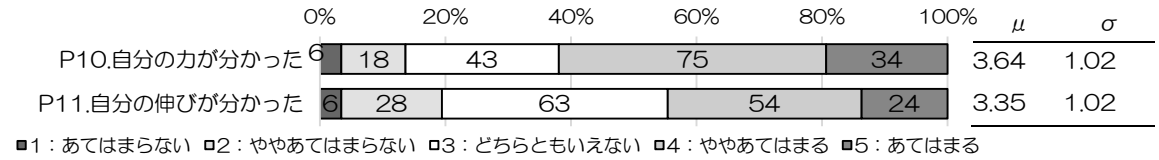


図3　認知に関する質問

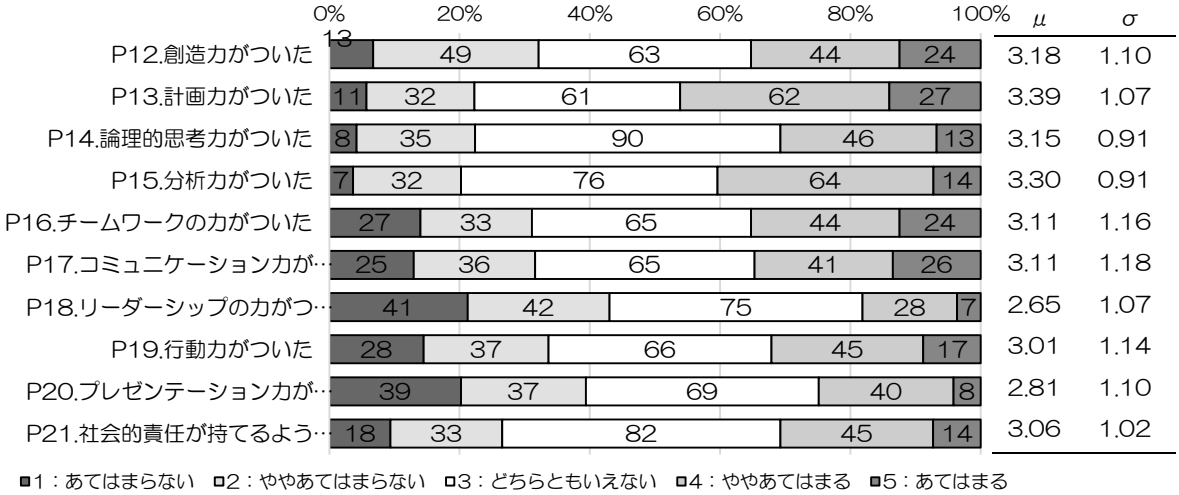


図4　能力に関する質問

見通しが持てた」より有意に低く(t(174)=3.234,p<.01)なっていた。

「認知」に関する項目の回答，得点平均，標準偏差を図 3 に示す。「P10.自分の力が分かった」(μ=3.64, σ=1.02) の得点平均は「P11.自分の伸びが分かった」(μ=3.35, σ=1.021)より有意に高く(t(174)=4.679,p<.01)なっていた。「P10.自分の力が分かった」の得点平均は「P7.意欲的に取り組めた」より有意に低く(t(175)=2.121,p<.05)なっていた。また，「P5.対話的な学修ができた」より有意に高く(t(174)=2.323,p<.05) ,「P13.計画力がついた」より有意に高く(t(175)=2.737,p<.01)なっていた。「P11.自分の伸びが分かった」の得点平均は「P6.深い学びができた」より有意に低く(t(173)=3.734,p<.01)なっていた。また，「P11.自分の伸びが分かった」の得点平均は「P12.創造力がついた」(μ=3.18, σ=1.10)より有意に高く(t(174)=2.320,p<.05)，「P14.論理的思考力がついた」(μ=3.15, σ=0.91)より有意に高く(t(173)=2.517,p<.05)なっていた。

「能力」に関する項目の回答，得点平均，標準偏差を図 4 に示す。「P13.計画力がついた」(μ=3.39, σ=1.07) の得点平均は「P12.創造力がついた」より有意に高く(t(175)=2.961,p<.01)，「P14.論理的思考力がついた」(μ=3.15, σ=0.91)より有意に高く(t(174)=3.059, p<.01)なっていた。「P15.分析力がついた」(μ=3.30, σ=0.91) の得点平均は「P14.論理的思考力がついた」より有意に高く(t(174)=2.731, p<.05)，「P12.創造力がついた」より有意に高く(t(175)=2.185,p<.01)なっていた。

「P18.リーダーシップの力がついた」(μ=2.65, σ=1.07) の得点平均は「P20.プレゼンテーション力がついた」(μ=2.81, σ=1.10)より有意に低く(t(175)=2.409,p<.05)，「P19.行動力がついた」(μ=3.01, σ=1.14)より有意に低く(t(175)=5.890,p<.01)なっていた。「P20.プレゼンテーション力がついた」の得点平均は「P19.行動力がついた」より有意に低く(t(176)=2.992,p<.01)，「P21.社会的責任が持てるようになった」より有意に低く(t(174)=3.576, p<.01)なっていた。

項目1～21の得点平均を降順に並べ,「授業」「認知」「能力」の得点平均を加えたグラフを図5に示す。「授業」(μ = 3.62, σ =0.76)の得点平均は「認知」(μ =3.49, σ =0.93)の得点平均より有意に高く(t(172)=2.238,p<.05),「能力」(μ =3.07, σ =0.80)の得点平均より有意に高く(t(171)=10.575,

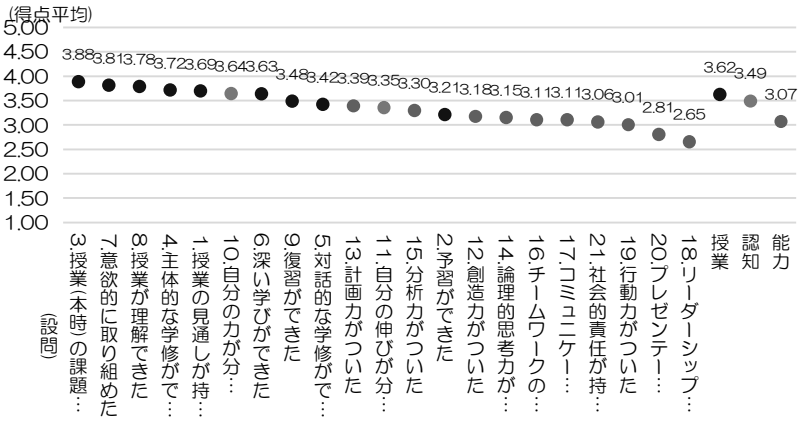


図5　得点平均(降順)

表９　得点平均の比較

	学年				授業形態				授業形態			
	２年 (N=39)		３年 (N=131)	*p*	1:講義 (N=21)		2:演習を含む講義 (N=75)	*p*	1:講義 (N=21)		3:演習 (N=80)	*p*
P1.授業の見通しが持てた	4.02 (0.96)	>	3.58 (0.92)	*	3.14 (0.91)	<	3.70 (1.00)	*	3.14 (0.91)	<	3.82 (0.87)	**
P2.予習ができた	3.76 (1.18)	>	3.06 (1.01)	**	2.42 (0.75)	<	3.24 (1.17)	**	2.42 (0.75)	<	3.38 (1.02)	**
P3.授業(本時)の課題が分かった	4.28 (0.86)	>	3.76 (1.00)	**	3.33 (0.86)	<	3.92 (1.01)	*	3.33 (0.86)	<	3.98 (1.01)	**
P4.主体的な学修ができた	4.33 (0.87)	>	3.55 (0.95)	**	3.04 (0.92)	<	3.82 (0.96)	**	3.04 (0.92)	<	3.78 (1.00)	**
P5.対話的な学修ができた	3.97 (1.01)	>	3.27 (1.03)	**	2.65 (1.04)	<	3.54 (1.06)	**	2.65 (1.04)	<	3.48 (1.06)	**
P6.深い学びができた	4.17 (0.82)	>	3.49 (0.85)	**	3.52 (0.81)		3.70 (0.91)	n.s.	3.52 (0.81)		3.59 (0.94)	n.s.
P7.意欲的に取り組めた	4.43 (0.91)	>	3.65 (0.93)	**	3.52 (0.93)		3.88 (1.05)	n.s.	3.52 (0.93)		3.82 (0.96)	n.s.
P8.授業が理解できた	4.41 (0.75)	>	3.60 (0.97)	**	3.61 (0.86)		3.85 (1.05)	n.s.	3.61 (0.86)		3.76 (0.98)	n.s.
P9.復習ができた	3.66 (0.98)		3.45 (1.21)	n.s.	2.95 (1.20)		3.28 (1.21)	n.s.	2.95 (1.20)	<	3.81 (1.06)	**
P10.自分の力が分かった	4.07 (1.04)	>	3.51 (0.98)	**	3.09 (0.77)	<	3.65 (1.01)	**	3.09 (0.77)	<	3.77 (1.04)	**
P11.自分の伸びが分かった	3.87 (1.00)	>	3.20 (0.98)	**	2.95 (0.74)	<	3.42 (0.99)	*	2.95 (0.74)	<	3.39 (1.09)	*
P12.創造力がついた	3.84 (1.09)	>	2.96 (1.03)	**	2.52 (0.81)	<	3.29 (1.09)	**	2.52 (0.81)	<	3.23 (1.14)	**
P13.計画力がついた	4.02 (1.01)	>	3.19 (1.01)	**	2.80 (0.87)		3.32 (1.08)	n.s.	2.80 (0.87)	<	3.61 (1.05)	**
P14.論理的思考力がついた	3.43 (1.05)	>	3.06 (0.84)	*	3.04 (0.80)		3.28 (0.85)	n.s.	3.04 (0.8)		3.06 (0.98)	n.s.
P15.分析力がついた	3.64 (0.96)	>	3.16 (0.87)	**	2.90 (0.89)	<	3.37 (0.85)	*	2.90 (0.89)		3.32 (0.95)	n.s.
P16.チームワークの力がついた	3.35 (1.14)		3.04 (1.16)	n.s.	2.19 (1.08)	<	3.05 (1.11)	**	2.19 (1.08)	<	3.40 (1.10)	**
P17.コミュニケーション力がついた	3.46 (1.21)	>	3.02 (1.15)	*	2.33 (1.15)	<	3.13 (1.26)	*	2.33 (1.15)	<	3.28 (1.03)	**
P18.リーダーシップの力がついた	3.00 (1.15)	>	2.57 (1.02)	*	2.14 (1.06)		2.69 (1.16)	n.s.	2.14 (1.06)	<	2.75 (0.95)	*
P19.行動力がついた	3.58 (1.04)	>	2.86 (1.11)	**	2.14 (1.01)	<	2.97 (1.13)	**	2.14 (1.01)	<	3.26 (1.08)	**
P20.プレゼンテーション力がついた	3.53 (0.94)	>	2.60 (1.02)	**	2.04 (1.12)	<	3.09 (1.15)	**	2.04 (1.12)	<	2.73 (0.94)	*
P21.社会的責任がついた	3.57 (1.03)	>	2.91 (0.98)	**	2.61 (1.02)		3.00 (1.03)	n.s.	2.61 (1.02)	<	3.24 (0.99)	*
授業	4.11 (0.63)	>	3.49 (0.71)	**	3.12 (0.66)	<	3.66 (0.75)	**	3.12 (0.66)	<	3.72 (0.75)	**
認知	3.97 (0.95)	>	3.35 (0.88)	**	3.02 (0.66)	<	3.54 (0.90)	*	3.02 (0.66)	<	3.58 (0.99)	**
能力	3.55 (0.84)	>	2.94 (0.73)	**	2.47 (0.78)	<	3.12 (0.82)	**	2.47 (0.78)	<	3.19 (0.72)	**

注)　**：$p<.01$, *：$p<.05$,　(標準偏差)

p<.01)なっていた。「認知」の得点平均は「能力」の得点平均より有意に高く(t(172)=16.018,p<.01)なっていた。

（２）学年・授業形態等による比較

項目 1～21 と「授業」「認知」「能力」の得点平均を学年と授業形態で比較した。t 検定の結果を表 9 に示す。2 年生(N=39)と 3 年生(N=131)の比較した結果，P1～8，P10～15，P17～21，「授業」「認知」「能力」は，2 年の得点平均が 3 年の得点平均より有意に高くなっていた。

授業形態では，「2:演習を含む講義」の得点平均が「1:講義」の得点平均より有意に高かったのは，P1～5，P10～12，P15～17，P19～20，「授業」「認知」「能力」であった。また，「3:演習」の得点平均が「1:講義」の得点平均より有意に高かったのは，P1～5，P9～13，P16～21，「授業」「認知」「能力」であった。

「P9.復習ができた」では，「3:演習」(μ = 3.81, σ =1.05)の得点平均は「2:演習を含む講義」(μ = 3.28, σ =1.21) より有意に高く(t(153)=2.917,p<.01)なっていた。「P20.プレゼンテーション力がついた」では，「2:演習を含む講義」(μ = 3.09, σ =1.15) の得点平均は「3:演習」(μ =2.74, σ =0.93)より有意に高く(t(142.81)=2.100,p<.05)なっていた。P9 と P20 以外に「2:演習を含む講義」と「3:演習」の得点平均に有意な差はみられなかった。

学修ポートフォリオを活用した授業と非活用の授業の得点平均を比較した。t 検定の結果を表 10 に示す。P2，P4，P5，P7，P8，P11～P20，「授業」「認知」「能力」では，活用した授業の得点平均が非活用の授業の得点平均より有意に高くなっていた。

表 10　学修ポートフォリオの活用・非活用

	学修ポートフォリオ			
	活用 (N=176)		非活用 (N=17)	p
P1.授業の見通しが持てた	3.69 (0.95)		3.43 (1.21)	n.s.
P2.予習ができた	3.21 (1.10)	>	1.94 (0.83)	**
P3.授業(本時)の課題が分かった	3.88 (1.01)		3.41 (1.42)	n.s.
P4.主体的な学修ができた	3.71 (1.00)	>	2.64 (1.17)	**
P5.対話的な学修ができた	3.41 (1.08)	>	2.35 (1.00)	**
P6.深い学びができた	3.63 (0.91)		3.23 (1.25)	n.s.
P7.意欲的に取り組めた	3.81 (1.00)	>	3.29 (1.21)	*
P8.授業が理解できた	3.78 (1.00)	>	3.23 (1.20)	*
P9.復習ができた	3.48 (1.18)		3.00 (1.46)	n.s.
P10.自分の力が分かった	3.64 (1.02)		3.41 (1.23)	n.s.
P11.自分の伸びが分かった	3.35 (1.02)	>	2.41 (0.94)	**
P12.創造力がついた	3.17 (1.10)	>	2.17 (0.81)	**
P13.計画力がついた	3.39 (1.07)	>	2.58 (1.00)	**
P14.論理的思考力がついた	3.15 (0.91)	>	2.64 (1.00)	*
P15.分析力がついた	3.29 (0.91)	>	2.64 (1.06)	**
P16.チームワークの力がついた	3.10 (1.16)	>	2.17 (1.42)	**
P17.コミュニケーション力がついた	3.10 (1.18)	>	2.29 (1.31)	**
P18.リーダーシップの力がついた	2.65 (1.07)	>	1.76 (0.97)	**
P19.行動力がついた	3.00 (1.14)	>	2.11 (1.17)	**
P20.プレゼンテーション力がついた	2.80 (1.10)	>	1.52 (0.80)	**
P21.社会的責任がついた	3.06 (1.02)		2.58 (1.12)	n.s.
授業	3.62 (0.76)	>	2.96 (1.02)	**
認知	3.50 (0.93)	>	2.91 (0.94)	*
能力	3.42 (0.89)	>	2.50 (0.75)	**

注)　**：p<.01，*：p<.05　，　(標準偏差)

（３）項目間の相関

「授業」「認知」に関する項目の相関係数を表 11 に示す。「P4.主体的な学修ができた」と「P7.意欲的に取り組めた」は，他の全ての項目との間に中程度の相関が認められた。「P3.授業(本時)の課題が分かった」「P8.授業が理解できた」は，他の 7 つの項目との間に中程度の相関が認められた。「P1.授業の見通しが持てた」「P2.予習ができた」「P9.復習ができた」は，他の 6 つの項目との間に中程度の相関が認められた。「P5.対話的な学修ができた」「P6.深い学びができた」は，他の 5 つの項目との間に中程度の相関が認められた。